(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2014 年 4 月 3 日(03.04.2014)

WIPO | PCT

(10) 国際公開番号
WO 2014/050000 A1

(51) 国際特許分類:
G06Q 10/00 (2012.01)

(21) 国際出願番号: PCT/JP2013/005404

(22) 国際出願日: 2013 年 9 月 12 日(12.09.2013)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(30) 優先権データ:
特願 2012-215349 2012 年 9 月 28 日(28.09.2012) JP

(71) 出願人: 日本電気株式会社(NEC CORPORATION) [JP/JP]; 〒1088001 東京都港区芝五丁目７番１号 Tokyo (JP).

(72) 発明者: 相馬　慎太郎(SOMA, Shintaro); 〒1088001 東京都港区芝五丁目７番１号　日本電気株式会社内 Tokyo (JP).

(74) 代理人: 馬場　資博, 外(BABA, Motohiro et al.); 〒3500046 埼玉県川越市菅原町２５番地１　石井ビル２階 Saitama (JP).

(81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IS, KE, KG, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:
— 国際調査報告（条約第 21 条(3)）

(54) **Title**: INFORMATION PROCESSING DEVICE

(54) 発明の名称 : 情報処理装置

[図7]

AA	BB	CC	DD	EE	FF	GG	HH	II
会議ID	会議名	目的	会議日	開始時刻	終了時刻	場所	参加者（ユーザID）	関連業務（業務ID）
M0001	JJ会議a	OO目的a	2012.xx.△△	9:00	11:00	TT第1会議室	U0001, U0002, …	X0001
M0002	KK会議b	PP目的b	2012.xx.△□	13:00	15:00	UU第2会議室	U0001, U0003, …	X0001
M0003	LL会議c	QQ目的c	2012.xx.○△	14:00	18:00	VV第1会議室	U0001, U0002, …	X0001
M0011	MM会議x	RR目的x	2012.xx.○□	10:00	12:00	VV第3会議室	U0002, U0004, …	U0002
M0012	NN会議y	SS目的y	2012.xx.□○	10:00	12:00	VV第3会議室	U0002, U0004, …	U0002
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

AA Meeting ID
BB Meeting name
CC Objective
DD Meeting date
EE Start time
FF End time
GG Place
HH Participants (user IDs)
II Related work (work ID)
JJ Meeting "a"
KK Meeting "b"
LL Meeting "c"
MM Meeting "x"
NN Meeting "y"
OO Objective "a"
PP Objective "b"
QQ Objective "c"
RR Objective "x"
SS Objective "y"
TT Meeting room No. 1
UU Meeting room No. 2
VV Meeting room No. 3

(57) **Abstract**: An information processing device according to the invention includes: a storage means for storing work identification information for identifying types of work; an input receiving means for receiving inputs of meeting information, which includes meeting identification information for identifying a meeting and work-specifying information for specifying work related to the meeting, and meeting content information, which includes the work-specifying information and indicates the content discussed in the meeting; and a storage control means for storing respectively in the storage means the meeting information and the meeting content information received by the input receiving means in association with the work identification information of work corresponding to the work-specifying information included in the meeting information and the meeting content information.

(57) 要約:　本発明における情報処理装置は、業務の種類を識別するための業務識別情報を記憶する記憶手段と、会議を識別するための会議識別情報、及び、当該会議の属する業務を特定するための業務特定情報を含む会議情報と、業務特定情報を含み、当該会議にて議論された内容を表す会議内容情報と、の入力を受け付ける入力受付手段と、入力受付手段にて入力を受け付けた会議情報と会議内容情報とのそれぞれを、当該会議情報と当該会議内容情報とのそれぞれに含まれる業務特定情報に対応する業務の業務識別情報に対応付けて記憶手段に記憶する記憶制御手段と、を備える。

WO 2014/050000 A1

明　細　書

発明の名称 ： 情報処理装置

技術分野

[0001] 本発明は、情報処理装置にかかり、特に、会議中に生成された情報を管理する情報処理装置に関する。

背景技術

[0002] 会議においては、会議中に議論された内容等の様々な情報が生成される。そのため、会議中に生成された情報を管理する技術が必要となり、様々な技術が知られている。例えば引用文献１では、会議支援装置が、会議を特定する情報（会議識別情報）をキーとして、会議名や、会議日時等の会議に関する情報を記憶し、管理する技術を開示している。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献1：特開２００７－１６４５５８号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0004] しかしながら、上述した特許文献１の技術のように、会議識別情報をキーとして会議に関する情報を記憶する場合、ユーザが記憶された会議に関する情報を読み出すために、その会議の会議識別情報を覚えていなければならない。このため、ユーザがより多くの会議に参加するほど、ユーザが覚えるべき会議識別情報が増加し、ユーザが所望する情報を取得することに時間がかかるという問題があった。

[0005] このため、本発明の目的は、上述した課題である、ユーザが所望する情報を取得することに時間がかかる、ということを解決することができる情報処理装置を提供することにある。

課題を解決するための手段

[0006] 上記目的を達成すべく、本発明の一形態である情報処理装置は、

業務の種類を識別するための業務識別情報を記憶する記憶手段と、

会議を識別するための会議識別情報、及び、当該会議の属する業務を特定するための業務特定情報を含む会議情報と、前記業務特定情報を含み、当該会議にて議論された内容を表す会議内容情報と、の入力を受け付ける入力受付手段と、

前記入力受付手段にて入力を受け付けた前記会議情報と前記会議内容情報とのそれぞれを、当該会議情報と当該会議内容情報とのそれぞれに含まれる前記業務特定情報に対応する業務の前記業務識別情報に対応付けて前記記憶手段に記憶する記憶制御手段と、

を備えるという構成を取る。

[0007] また、本発明の他の形態である情報処理方法は、

業務の種類を識別するための業務識別情報を記憶する記憶手段を備える情報処理装置にて、

会議を識別するための会議識別情報、及び、当該会議の属する業務を特定するための業務特定情報を含む会議情報と、前記業務特定情報を含み、当該会議にて議論された内容を表す会議内容情報と、の入力を受け付け、

前記入力受付手段にて入力を受け付けた前記会議情報と前記会議内容情報とのそれぞれを、当該会議情報と当該会議内容情報とのそれぞれに含まれる前記業務特定情報に対応する業務の前記業務識別情報に対応付けて前記記憶手段に記憶する、

という構成を取る。

[0008] また、本発明の他の形態であるプログラムは、

業務の種類を識別するための業務識別情報を記憶する記憶手段を備える情報処理装置に、

会議を識別するための会議識別情報、及び、当該会議の属する業務を特定するための業務特定情報を含む会議情報と、前記業務特定情報を含み、当該会議にて議論された内容を表す会議内容情報と、の入力を受け付ける入力受付手段と、

前記入力受付手段にて入力を受け付けた前記会議情報と前記会議内容情報とのそれぞれを、当該会議情報と当該会議内容情報とのそれぞれに含まれる前記業務特定情報に対応する業務の前記業務識別情報に対応付けて前記記憶手段に記憶する記憶制御手段と、

を実現させるためのプログラムである。

発明の効果

[0009] 本発明は、以上のように構成されることにより、迅速にユーザが所望する会議に関する情報を取得することができる。

図面の簡単な説明

[0010] [図1]本発明における情報処理システムの構成の概略を示すブロック図である。

[図2]本発明における情報処理装置の構成の概略を示すブロック図である。

[図3]本発明における演算部の構成を示す機能ブロック図である。

[図4]本発明における記憶部の例を説明するための図である。

[図5]ユーザ情報の例を説明するための図である。

[図6]業務情報の例を説明するための図である。

[図7]会議情報の例を説明するための図である。

[図8]アクションアイテム情報の例を説明するための図である。

[図9]決定事項情報の例を説明するための図である。

[図10]データ構造の例を説明するための図である。

[図11]会議情報入力画面の例を説明するための図である。

[図12]アクションアイテム入力画面の例を説明するための図である。

[図13]決定事項入力画面の例を説明するための図である。

[図14]業務一覧情報の例を説明するための図である。

[図15]アクションアイテム一覧情報の例を説明するための図である。

[図16]決定事項一覧情報の例を説明するための図である。

[図17]会議一覧情報の例を説明するための図である。

[図18]本発明における会議の開始前の動作を示すフローチャートである。

[図19]本発明における会議の開始前の動作を示すフローチャートである。

[図20]本発明における会議の開始時の動作を示すフローチャートである。

[図21]本発明における会議中の動作を示すフローチャートである。

[図22]本発明における会議中の動作を示すフローチャートである。

[図23]本発明における会議の終了後の動作を示すフローチャートである。

発明を実施するための形態

[0011] ＜第１実施形態＞

本発明の第１実施形態を、図１乃至図２３を参照して説明する。図１乃至図１７は、情報処理システム１の構成を説明するための図である。図１８乃至図２３は、情報処理システム１の動作を説明するための図である。

[0012] ［構成］

図１は、本実施形態における情報処理システム１の概要を示す図である。情報処理システム１は、情報処理装置１１と、通信網１２と、ユーザ端末１３Ａ，１３Ｂ，…と、を備えている。情報処理装置１１は、例えば、会議室に配置され、会議の進行を制御する機能を有している。また、情報処理装置１１は、ユーザ（例えば会議の出席者）から会議の議論の内容を表す会議内容情報の入力を受け付け、会議内容情報を出力および記憶する機能を有している。複数のユーザ端末１３Ａ，１３Ｂ，…は、例えば、情報処理装置１１が配置された場所とは異なる場所（例えば社員のデスク上）に配置される情報処理端末である。ユーザ端末１３Ａ，１３Ｂ，…のそれぞれは、通信網１２を介して情報処理装置１１と接続し、会議内容情報を含む各種の情報を送受信する。

[0013] 次に、図２を参照して、情報処理装置１１の構成について説明する。図２は、情報処理装置１１の構成例を示すブロック図である。図２に示すように、情報処理装置１１は、演算部２１と、RAM（Random Access Memory）２２と、記憶部２３と、入力部２４と、出力部２５と、通信部２６と、を備えている。

[0014] 演算部２１は、例えば、CPU（Central Processing Unit）により構成され

る。演算部２１は、記憶部２３に含まれるROM（Read Only Memory）に格納されたプログラムを読み込み、RAM２２を作業領域としてプログラムを実行することにより、図３に示す情報処理装置１１を制御するための各種機能を実行する。図３は、演算部２１の機能的構成例を示すブロック図である。プログラムを実行することにより、演算部２１は、図３に示す、入力受付部３１（入力受付手段）と、読出し部３２（読出し手段）と、記憶制御部３３（記憶制御手段）と、認証部３４と、の機能ブロックを有する。図３に示す各機能ブロックの処理については後述する。

[0015] 入力部２４は、例えば、キーボードであり、ユーザ（会議の出席者）からの入力を受け付ける。具体的に、入力部２４は、会議情報と、会議内容情報と、の入力を受け付ける。また、入力部２４は、会議中のメモ等の入力を受け付ける。なお、入力部２４は、キーボードに限られず、マウスや、タッチパネル式入力装置であってもよい。また、入力部２４は、マイクを備え、音声による入力を受け付けてもよい。

[0016] 出力部２５（出力手段）は、例えば、ディスプレイ（表示装置）であり、会議情報と会議内容情報との入力を受け付けるための入力画面を表示する。また、出力部２５は、読出し部３２により読み出された情報を出力する。なお、出力部２５は、ディスプレイに限られず、スピーカ等の音声を出力する装置であってもよい。

[0017] 通信部２６は、通信網１２を介して、ユーザ端末１３Ａ，１３Ｂ，…と通信する。情報処理装置１１は、通信部２６を介してユーザ端末１３Ａ，１３Ｂ，…と通信することにより、会議情報を送受信するとともに、ユーザ端末１３Ａ，１３Ｂ，…へ会議内容情報を出力する。これにより、ユーザが会議情報と、会議内容情報と、を容易に確認することができる。

[0018] 記憶部２３は、例えば、ハードディスクドライブや不揮発性メモリ等を備えている。ただし、記憶部２３にあるプログラム以外のデータは、必ずしも情報処理装置１１内に記憶されている必要はなく、通信網１２上に別装置に記憶されていてもよい。このため、情報処理装置１１は、通信部２６を介し

て通信網上１２の別装置に対してデータを取得／保存することも可能である。

[0019] 図４は、記憶部２３に記憶されるプログラム以外のデータである、ユーザ情報２３ａと、業務情報２３ｂと、会議情報２３ｃと、アクションアイテム情報２３ｄと、決定事項情報２３ｅとを示す図である。図４に示すように、会議情報２３ｃと、アクションアイテム情報２３ｄと、決定事項情報２３ｅと、のそれぞれは、業務情報２３ｂに対応付けられて記憶される。これにより、業務情報（業務ＩＤ）を主キーとして、会議情報２３ｃと、アクションアイテム情報２３ｄと、決定事項情報２３ｅと、のそれぞれを読み出すことができる。

[0020] 図５は、ユーザ情報２３ａを記憶するユーザ情報テーブル４１の例を示す図である。図５に示すように、ユーザ情報２３ａは、ユーザＩＤ（Identification）と、ユーザ名と、パスワードと、を含む。ユーザ情報テーブル４１に記憶されるユーザ情報２３ａは、ユーザからの入力（指示）により編集（追加と変更と削除）可能である。なお、パスワードは、ユーザを認証するために利用する情報である。従って、ユーザの認証が不要な場合には、パスワードは設定されていなくてもよい。ここでユーザ情報２３ａは、本システム専用ではなく、例えばActive DirectoryやLDAP（Lightweight Directory Access Protocol）などのディレクトリーサービスとして通信網１２上に別装置として置かれ、通信部２６を介して取得されてもよい。

[0021] 図６は、業務情報２３ｂを記憶する業務情報テーブル４２の例を示す図である。図６に示すように、業務ＩＤと業務名とを含む業務情報２３ｂは、業務ＩＤを主キーとし、業務に関連するユーザＩＤをその下に対応付ける形で業務情報テーブル４２に記憶される。図６の例では、業務Ａ（業務ＩＤ：Ｘ０００１）にユーザＡ（ユーザＩＤ：Ｕ０００１）とユーザＢ（ユーザＩＤ：Ｕ０００２）が所属していることを表している。業務情報テーブル４２に記憶される業務情報２３ｂは、ユーザからの入力により編集（追加と変更と削除）可能である。

[0022] 図７は、会議情報２３ｃを記憶する会議情報テーブル５５の例を示す図である。図７に示すように、会議情報２３ｃの各項目（会議名、目的、会議日、開始時刻、終了時刻、場所、参加者、関連業務）は、会議ＩＤ（会議識別情報）を主キーとして対応付けられて会議情報テーブル５５に記憶される。図７の例では、会議ＩＤ「Ｍ０００１」には、関連業務として業務ＩＤ「Ｘ０００１」が対応付けられて記憶されている。なお、会議情報テーブル５５に記憶される会議情報の各項目は、図１１を参照して後述する会議情報入力画面５１にて編集（追加と変更と削除）可能である。ここで会議情報２３ｃの一部項目（開始時刻、終了時刻、場所）は、本システム専用ではなく、例えばグループウェアサービスとして通信網１２上に別装置として置かれ、通信部２６を介して取得されてもよい。

[0023] 図８は、アクションアイテム情報２３ｄを記憶するアクションアイテム情報テーブル６５の例を示す図である。図８に示すように、アクションアイテム情報２３ｄの各項目（アクションアイテム、期日、担当者、関連業務）は、アクションアイテムＩＤを主キーとして対応付けられてアクションアイテム情報テーブル６５に記憶される。図８の例では、アクションアイテムＩＤ「Ａ０００１」には、関連業務として業務ＩＤ「Ｘ０００１」が対応付けられて記憶されている。なお、アクションアイテム情報テーブル６５に記憶されるアクションアイテム情報の各項目は、図１２を参照して後述するアクションアイテム情報入力画面６１にて編集（追加と変更と削除）可能である。

[0024] 図９は、決定事項情報２３ｅを記憶する決定事項情報テーブル７５の例を示す図である。図９に示すように、決定事項情報２３ｅの各項目（決定事項、理由、作成日、関連業務）は、決定事項ＩＤを主キーとして対応付けられて決定事項情報テーブル７５に記憶される。図９の例では、「決定事項ａ」には、関連業務として業務ＩＤ「Ｘ０００１」が対応付けられて記憶されている。なお、決定事項情報テーブル７５に記憶される決定事項情報の各項目は、図１３を参照して後述する決定事項情報入力画面７１にて編集（追加と変更と削除）可能である。

[0025] ここで、図１０を参照して、記憶部２３に階層的に記憶する業務情報２３ｂと、会議情報２３ｃと、アクションアイテム情報２３ｄと、決定事項情報２３ｅと、の具体的な例について説明する。

[0026] 図１０は、記憶制御部３３が記憶部２３の記憶領域に構築するデータベースの例を示す図である。データベースは、第１の階層と、第１の階層の下位の階層である第２の階層とを有している。記憶部２３のINDEX９１の下位の階層である第１の階層には、業務情報１０１Ａ，１０１Ｂ，…（業務情報２３ｂ）が記憶されている。そして、第１の階層の下位の階層である第２の階層には、業務情報１０１Ａ，１０１Ｂ，…のそれぞれに対応付けられた会議情報１１１Ａ，１１１Ｂ，…（会議情報２３ｃ）と、アクションアイテム情報１１２Ａ，１１２Ｂ，…（アクションアイテム情報２３ｄ）と、決定事項情報１１３Ａ，１１３Ｂ，…（決定事項情報２３ｅ）と、のそれぞれが並列に記憶されている。

[0027] 業務情報１０１Ａ，１０１Ｂ，…は、例えば図６の業務情報テーブル４２に含まれる業務情報（業務Ａ、業務Ｂ、…）である。会議情報１１１Ａは、業務情報１０１Ａ（業務Ａ）に対応付けられた会議情報（例えば会議ａ，ｂ，ｃ）である。アクションアイテム情報１１２Ａは、業務情報１０１Ａ（業務Ａ）に対応付けられたアクションアイテム情報（例えばアクションアイテムａ乃至ｅ）である。そして、決定事項情報１１３Ａは、業務情報１０１Ａ（業務Ａ）に対応付けられた決定事項情報（例えば決定事項ａ乃至ｃ）である。また、会議情報１１１Ａには、会議１２１ａ，１２１ｂ，…（例えば会議ａの会議ＩＤ「Ｍ０００１」）のそれぞれと、当該会議１２１ａ，１２１ｂ，…のそれぞれに対応付けられた議事録情報１３１とホワイトボードデータ１３２（会議成果物情報）（例えば議事録情報１３１ａとホワイトボードデータ１３２ａ）とが記憶されている。議事録情報１３１は、会議の議事録を表す情報である。ホワイトボードデータ１３２は、会議中にタッチパネル式入力装置やホワイトボード等（入力部２４）を介して（例えば手書きにて）入力を受け付けたメモ等を含むデータである。

[0028] このように、業務情報（業務識別情報）と、会議情報及び会議内容情報と、を階層構造にて記憶するので、ユーザが業務情報を選択することで、業務情報に対応付けられた会議情報と会議内容情報とのそれぞれを容易に閲覧することができる。また、ユーザが会議の識別情報を覚えていなくても、当該会議にて議論された会議内容情報を迅速に閲覧することができる。

[0029] 次に、情報処理装置１１に装備された演算部２１の各機能ブロックの処理の詳細について説明する。まず会議の開始前における処理について説明する。会議の開始前における処理は、例えば、ユーザの自席に配置されたユーザ端末１３Ａ，１３Ｂ，…を介して入力された情報を用いて、情報処理装置１１にて行われる。まず、認証部３４は、入力受付部３１（および通信部２６）にてユーザから入力を受け付けたユーザＩＤとパスワード（ユーザ情報）とが、ユーザ情報テーブル４１に記憶されたユーザＩＤとパスワードの組と一致するかを判定し、ユーザの認証を行う。そして、入力受付部３１がユーザに関連する業務情報の入力を受け付けると、記憶制御部３３が、業務情報とユーザ情報（ユーザＩＤ）とを対応付けて記憶部２３に記憶する（図６参照）。また、入力受付部３１が、ユーザが参加する会議の開催情報を含む会議情報と、会議に関連する関連業務情報と、の入力を受け付けると、記憶制御部３３が、会議情報と関連業務情報（業務ＩＤ）とを対応付けて記憶部２３に記憶する（図７）。なお、会議情報は、例えば図７に示した項目（会議名、目的、…）の全ての入力を受け付ける必要はない。入力を受け付けなかった項目については、以下に説明する会議の開始時にて、入力を受け付けることができる。

[0030] 次に、会議の開始時における処理について説明する。会議の開始時における処理は、例えば、会議室に配置された情報処理装置１１を利用して行われる。まず、認証部３４は、入力受付部３１にてユーザから入力を受け付けたユーザ情報に基づいて、ユーザの認証を行う。続いて、読出し部３２は、ユーザ情報に対応付けられた業務情報（業務一覧）を読み出し、出力部２５が業務一覧を表示する。そして、入力受付部３１は、ユーザから、表示した業

務一覧のうち会議に関連する業務の選択入力を受け付ける。なお、会議に関連する業務が業務一覧に含まれていない場合に、入力受付部３１は、会議に関連する新たな業務情報の入力を受け付けることができる。そして、記憶制御部３３は、新たな業務情報をユーザ情報に対応付けて記憶することができる。

[0031] 続いて、読出し部３２は、記憶部２３に記憶された会議情報を読み出す。そして、出力部２５は、読み出した会議情報を含む会議情報入力画面を表示する。図１１を参照して、入力受付部３１が会議情報の入力を受け付けるための会議情報入力画面の詳細について説明する。

[0032] 図１１は、出力部２５に表示される会議情報入力画面５１の例を示す図である。会議情報入力画面５１は、ユーザからの表示指示があった時、および、会議の開始時刻になった時に出力部２５にて表示される。図１１に示すように、会議情報入力画面５１から入力可能な会議情報は、例えば、会議名と、目的と、会議日と、会議の開始時刻と、会議の終了時刻と、会議の場所と、会議の出席者と、会議IDと、関連業務の業務名と、の項目を含む情報である。会議IDは、会議の識別情報であり、情報処理装置１１により１つの会議に対して一意に割り当てられる情報である。関連業務（会議の属する業務を特定するための業務特定情報）は、業務情報（業務一覧）から選択された、会議に関連する業務を表す情報である。会議情報入力画面５１の各項目の横には、ユーザにより入力可能な入力領域が設けられている。この入力領域には、例えば、ユーザが直接入力した文字列を表示してもよいし、プルダウンメニュー等によりユーザが選択した情報（文字列）を表示してもよい。なお、会議の情報は、上記に限られず、会議の議題（アジェンダ）等の情報を有していてもよい。これにより、会議の開始時に会議の目的等を、会議の参加者に認識させることができる。この結果、より効果的な会議を行うことができる。

[0033] また、出力部２５は、会議の開始時に表示される会議情報入力画面５１の入力領域に、すでに記憶した会議情報を表示する。例えば、入力受付部３１

が、会議の開始前に「会議名」として「会議ａ」を取得した場合には、出力部２５は、会議の開始時に表示する会議情報入力画面５１の「会議名」の項目に対応する入力領域に「会議ａ」を表示する。一方、入力受付部３１が会議の開始前に入力を受け付けていない項目がある場合には、出力部２５は、会議の開始時に表示する会議情報入力画面５１の入力を受け付けていない項目に対応する入力領域を空欄にして表示する。

[0034] 続いて、入力受付部３１は、入力部２４を介して会議情報入力画面５１の登録ボタン５２の選択入力を受け付ける。登録ボタン５２が選択入力された場合、記憶制御部３３は、会議情報入力画面５１にて入力された会議情報を、関連する業務情報に対応付けて記憶部２３に記憶する（図７）。

[0035] 次に、会議中における処理について説明する。入力受付部３１は、会議中に、入力部２４を介して、会議内容情報を取得する。図１２と図１３を参照して、入力受付部３１が会議内容情報を取得するための会議内容情報入力画面について説明する。会議内容情報入力画面は、アクションアイテム入力画面６１と、決定事項入力画面７１と、の２つの入力画面を有している。まず、入力受付部３１は、ユーザから会議内容情報の入力の指示を受け付ける。例えば、入力受付部３１は、出力部２５により表示されたアクションアイテム入力画面６１を表示させるためのアイコンと、決定事項入力画面７１を表示させるためのアイコンと、のいずれかの選択入力を受け付ける。そして、出力部２５は、選択入力を受け付けたアクションアイテム入力画面６１と、決定事項入力画面７１とのいずれかを表示する。

[0036] 図１２は、アクションアイテム入力画面６１の例を示す図である。図１２に示すように、アクションアイテム入力画面６１には、アクションアイテムと、期日と、担当者と、の項目を含む情報が表示される。「アクションアイテム」は、ユーザ（担当者）がこれから実行すべきことを表す情報である。「期日」は、アクションアイテムを行う期限を表す情報である。「担当者」は、アクションアイテムを行うユーザを表す情報である。アクションアイテム入力画面６１の各項目の横には、上述した会議情報入力画面５１と同様に

、ユーザにより入力可能な入力領域が設けられている。

[0037] 入力受付部３１は、ユーザによりアクションアイテム入力画面６１の登録ボタン６２の選択入力を受け付ける。登録ボタン６２が選択入力された場合に、記憶制御部３３は、アクションアイテム入力画面６１にて入力されたアクションアイテム情報（会議内容情報）を業務に対応付けてRAM２２に一時的に保持（記憶）する。なお、記憶制御部３３は、アクションアイテム情報を記憶部２３に記憶してもよい。また、記憶制御部３３は、アクションアイテム情報のアクションアイテムと、期日と、担当者と、を１つのレコードとして、リスト化したアクションアイテム一覧（例えば後述する図１５Ａのアクションアイテム一覧画面１６１Ａ）を生成し、RAM２２に保持する。

[0038] 一方、ユーザによりアクションアイテム入力画面６１の取り消しボタン６３が選択された場合には、記憶制御部３３は、アクションアイテム入力画面６１にて入力されたアクションアイテム情報を保持せずに、出力部２５は、アクションアイテム入力画面６１の表示を終了する。

[0039] そして、入力受付部３１は、会議の終了時において、ユーザから会議の終了の指示を受け付ける。会議の終了が指示された場合、記憶制御部３３は、RAM２２に保持したアクションアイテム情報を業務に対応付けて記憶部２３に記憶する（図８）。

[0040] 次に、図１３は、決定事項入力画面７１の例を示す図である。図１３に示すように、決定事項入力画面７１には、決定事項と、理由と、作成日と、の項目を含む情報が表示される。「決定事項」は、会議にて決定された内容を表す情報である。「理由」は、決定事項が決定した理由を表す情報である。「作成日」は、決定事項が作成された日を表す情報である。決定事項入力画面７１の各項目の横には、上述した会議情報入力画面５１と同様に、ユーザにより入力可能な入力領域が設けられている。なお、情報処理装置１１は、会議情報に含まれる「会議日」の入力領域に入力された情報を、作成日として、「作成日」の入力領域に自動的に入力してもよい。

[0041] 入力受付部３１は、ユーザにより決定事項入力画面７１の登録ボタン７２

の選択入力を受け付ける。登録ボタン７２が選択入力された場合に、記憶制御部３３は、決定事項入力画面７１にて入力された決定事項情報（会議内容情報）を業務に対応付けてRAM２２に一時的に保持（記憶）する。なお、記憶制御部３３は、決定事項情報を記憶部２３に記憶してもよい。また、記憶制御部３３は、決定事項情報の決定事項と、理由と、作成日と、を１つのレコードとして、リスト化した決定事項一覧（例えば図１６の決定事項一覧画面１８１）を生成し、RAM２２に保持する。

[0042] 一方、ユーザにより決定事項入力画面７１の取り消しボタン７３が選択された場合には、記憶制御部３３は、決定事項入力画面７１にて入力された決定事項情報を保持せず、出力部２５は、決定事項入力画面７１の表示を終了する。

[0043] そして、入力受付部３１は、会議の終了時において、ユーザから会議の終了の指示を受け付ける。会議の終了が指示された場合、記憶制御部３３は、RAM２２に保持した決定事項情報を業務に対応付けて記憶部２３に記憶する（図９）。

[0044] 次に、会議の終了後における処理について説明する。会議の終了後における処理は、例えば、ユーザの自席に配置されたユーザ端末１３Ａ，１３Ｂ，…を介して、情報処理装置１１にて行われる。記憶した会議情報と会議内容情報とを読み出すために、まず、認証部３４がユーザの認証処理を行い、読出し部３２が認証したユーザに対応付けられた業務の一覧を読出し、出力部２５へ表示する処理を実行する。具体的には、入力受付部３１は、ユーザからユーザＩＤとパスワードの入力を受け付け、認証部３４が認証処理を行う。また、ユーザの認証に成功した場合、読出し部３２は、ユーザＩＤに対応付けられた業務を読み出す。例えば、入力を受け付けたユーザＩＤが「Ｕ０００１」である場合に、読出し部３２は、図６の業務情報テーブル４２を参照してユーザＩＤ「Ｕ０００１」に対応付けられた業務名である「業務Ａ、業務Ｂ、業務Ｃ」を読み出す。出力部２５は、読み出した業務名を業務一覧として表示する。

[0045] なお、読出し部３２は、図６の業務情報テーブル４２に加えて、図８のアクションアイテム情報テーブル６５を参照することで、業務に対応付けられたアクションアイテムの数を業務一覧とともに表示することができる。図１４は、アクションアイテム数を含む業務一覧画面１５１の例を示す図である。図１４に示すように、業務一覧画面１５１には、業務名と、アクションアイテム数と、ユーザ担当アクションアイテム数と、編集と、の項目を含む情報が表示される。「アクションアイテム数」は、業務に対応付けられたアクションアイテムの数を表す情報である。「ユーザ担当アクションアイテム数」は、入力を受け付けたユーザＩＤに対応するユーザが担当者として設定されているアクションアイテムの数を表す情報である。以下に、アクションアイテム数を取得する方法について説明する。

[0046] 例えば、図８のアクションアイテム情報テーブル６５を参照すると、業務ＩＤ「Ｘ０００１」（業務Ａ）に対応付けられたアクションアイテムは、「アクションアイテムａ～ｅ」の５つになる。従って、出力部２５は、「業務Ａ」に対応するレコードのアクションアイテム数として「５」を表示する。また、同様に、図８のアクションアイテム情報テーブル６５を参照すると、業務ＩＤ「Ｘ０００１」（業務Ａ）と、ユーザＩＤ「Ｕ０００１」（ユーザＡ）と、に対応付けられたアクションアイテムは、「アクションアイテムａ，ｃ，ｄ」の３つになる。従って、出力部２５は、「業務Ａ」に対応するレコードのユーザ担当アクションアイテム数として「３」を表示する。これにより、例えばユーザが優先的に閲覧すべき業務を簡単に把握することができる。

[0047] 次に、業務に対応付けられた会議情報と会議内容情報とを読み出す処理について説明する。まず、入力受付部３１は、ユーザから「編集」の列の詳細ボタン１５２の選択入力を受け付ける。これにより、出力部２５は、詳細ボタン１５２が選択入力されたレコードに対応する会議情報と、会議内容情報とのいずれかの一覧情報を取得し、表示する。以下の説明では、出力部２５が、詳細ボタン１５２が選択入力されたレコードに対応するアクションアイ

テム情報（会議内容情報）を表示する場合について説明する。

[0048] 詳細ボタン１５２が選択入力されると、出力部２５は、図１５Ａのアクションアイテム一覧画面１６１Ａを取得し、表示する。アクションアイテム一覧画面１６１Ａには、図８のアクションアイテム情報テーブル６５に記憶されたアクションアイテム情報のうち、「業務Ａ（業務ＩＤ「Ｘ０００１」）」に対応付けられたアクションアイテム情報が取得され、一覧表示される。具体的には、出力部２５は、「アクションアイテムａ乃至ｅ」の５つのアクションアイテム情報の一覧を表示する。そして、入力受付部３１が、ユーザから「編集」の列の詳細ボタン１６２の選択入力を受け付けると、出力部２５は、図１２のアクションアイテム入力画面６１を表示する。これにより、ユーザが、選択入力したアクションアイテム情報を編集することができる。

[0049] なお、入力受付部３１が、業務（例えば業務Ａ）に加えて、ユーザ（例えばユーザＡ）に対応付けられたアクションアイテム情報の表示の指示を受け付けた場合、出力部２５は、図１５Ｂのアクションアイテム一覧画面１６１Ｂを表示する。アクションアイテム一覧画面１６１Ｂには、図８のアクションアイテム情報テーブル６５に記憶されたアクションアイテム情報のうち、「業務Ａ（業務ＩＤ「Ｘ０００１」）」と「ユーザＡ（ユーザＩＤ「Ｕ００００１」）」とに対応付けられたアクションアイテム情報が一覧表示される。具体的には、出力部２５は、「アクションアイテムａ，ｃ，ｅ」の３つのアクションアイテム情報の一覧を表示する。これにより、ユーザが担当するアクションアイテムの情報を容易に閲覧することができる。

[0050] また、アクションアイテム一覧画面１６１は、会議一覧タブ１７１と、アクションアイテム一覧タブ１７２と、決定事項一覧タブ１７３と、を有している。入力受付部３１は、決定事項一覧タブ１７３の選択入力を受け付けると、出力部２５は、「業務Ａ」に対応付けられた決定事項一覧画面を表示する。

[0051] 図１６は、決定事項一覧画面１８１の例を示す図である。決定事項一覧画面１８１には、図９の決定事項情報テーブル７５に記憶された決定事項情報

のうち、「業務Ａ（業務ＩＤ「Ｘ０００１」）」に対応付けられた決定事項情報が一覧表示される。具体的には、出力部２５は、「決定事項ａ～ｃ」の３つの決定事項情報の一覧を表示する。そして、入力受付部３１が、ユーザから「編集」の列の詳細ボタン１８２の選択入力を受け付けると、出力部２５は、図１３の決定事項情報入力画面７１を表示する。これにより、ユーザが、選択入力した決定事項情報を編集することができる。

[0052] また、決定事項一覧画面１８１も、アクションアイテム一覧画面１６１と同様に、会議一覧タブ１７１と、アクションアイテム一覧タブ１７２と、決定事項一覧タブ１７３と、を有している。入力受付部３１は、会議一覧タブ１７１の選択入力を受け付けると、出力部２５は、「業務Ａ」に対応付けられた会議一覧画面を表示する。

[0053] 図１７は、会議一覧画面１９１の例を示す図である。会議一覧画面１９１には、図７の会議情報テーブル５５に記憶された会議情報のうち、「業務Ａ（業務ＩＤ「Ｘ０００１」）」に対応付けられた会議情報が一覧表示される。具体的には、出力部２５は、「会議ａ乃至ｅ」の３つの会議情報の一覧を表示する。なお、図１７の例では、説明を簡単にするために、会議名と、会議日と、場所と、参加者名と、編集と、の項目が表示されているが、上記に限られず、会議の目的などの会議情報テーブル５５に記憶された他の項目を表示してもよい。そして、入力受付部３１が、ユーザから「編集」の列の詳細ボタン１９２の選択入力を受け付けると、出力部２５は、図１１の会議情報入力画面５１を表示する。これにより、ユーザが、選択入力した会議情報を編集することができる。

[0054] ［動作］

次に、図１８乃至図２３を参照して、上述した情報処理システム１の動作について詳細に説明する。図１８と図１９は、会議の開始前の動作を説明するためのフローチャートである。図２０は、会議の開始時の動作を説明するためのフローチャートである。図２１と図２２は、会議中の動作を説明するためのフローチャートである。図２３は、会議の終了後の動作を説明するた

めのフローチャートである。

[0055] まず、図１８を参照して業務情報登録処理について説明する。業務情報登録処理は、会議の開始前に、例えば、ユーザの自席に配置されたユーザ端末１３Ａ，１３Ｂ，…を介して行われる。まず、入力受付部３１（および通信部２６）は、ユーザにより入力されたユーザ情報（ユーザＩＤとパスワード）の入力を受け付ける（ステップＳ１）。続いて、認証部３４は、入力を受け付けたユーザ情報と、図５のユーザ情報テーブル４１に記憶されたユーザ情報と、を参照してユーザを認証する（ステップＳ２）。例えば、入力受付部３１は、ユーザＩＤ「Ｕ０００１」とパスワード「××××」との入力を受け付けた場合に、認証部３４は、図５のユーザ情報テーブル４１を参照する。そして、認証部３４は、ユーザ情報テーブル４１に記憶されたユーザＩＤ「Ｕ０００１」にパスワード「××××」が対応付けられているか否かを判定する。そして、認証部３４は、ユーザＩＤ「Ｕ０００１」にパスワード「××××」が対応付けられていると判定した場合に、認証成功を出力する。

[0056] 認証部３４により認証成功が出力されると、入力受付部３１は、ユーザに関連する業務情報の入力を受け付ける（ステップＳ３）。続いて、記憶制御部３３は、ユーザ情報（ユーザＩＤ）に対応付けて業務情報を記憶部２３に記憶する（ステップＳ４）。これにより、記憶制御部３３は、ユーザ情報と業務情報とを対応付けた図６の業務情報テーブル４２を生成することができる。

[0057] 次に、図１９を参照して会議の開始前における会議情報登録処理について説明する。会議の開始前における会議情報登録処理は、例えば、ユーザの自席に配置されたユーザ端末１３Ａ，１３Ｂ，…を介して行われる。なお、図１９のステップＳ１１，Ｓ１２の処理は、図１８のステップＳ１，Ｓ２の処理と同様であるので、詳細な説明は省略する。

[0058] まず、入力受付部３１は、ユーザ情報の入力を受け付ける（ステップＳ１１）。続いて、認証部３４は、ユーザを認証する（ステップＳ１２）。次に

、入力受付部３１は、ユーザが参加する会議の会議情報と、会議に関連する関連業務情報と、の入力を受け付ける（ステップＳ１３）。関連業務情報は、認証したユーザが行う業務を表す情報である。入力受付部３１は、例えば、図１１の会議情報入力画面５１を介して会議情報と、関連業務情報と、の入力を受け付ける。そして、記憶制御部３３は、関連業務情報（業務ＩＤ）に対応付けて会議情報を記憶部２３に記憶する（ステップＳ１４）。これにより、記憶制御部３３は、業務情報と会議情報とを対応付けた図７の会議情報テーブル５５を生成することができる。

[0059] 次に、図２０を参照して、会議の開始時の処理について説明する。会議の開始時における処理は、例えば、会議室に配置された情報処理端末１１を利用して行われる。なお、図２０のステップＳ２１，Ｓ２２の処理は、図１８のステップＳ１，Ｓ２の処理と同様であるので、詳細な説明は省略する。

[0060] まず、入力受付部３１は、ユーザ情報の入力を受け付ける（ステップＳ２１）。続いて、認証部３４は、ユーザを認証する（ステップＳ２２）。続いて、読出し部３２は、ユーザ情報に対応付けられた業務一覧を読み出す（ステップＳ２３）。例えば、読出し部３２は、図６の業務情報テーブル４２を参照して、ユーザＩＤ「Ｕ０００１」に対応付けられた業務名「業務Ａ、業務Ｂ、業務Ｃ」を読み出す。そして、出力部２５は、読み出した業務一覧（例えば図１４）を表示する（ステップＳ２４）。すなわち、出力部２５は、業務Ａと、業務Ｂと、業務Ｃとをリスト化した画面を表示する。

[0061] 続いて、入力受付部３１は、ユーザから、表示した業務一覧のうち会議に関連する関連業務の選択入力を受け付ける（ステップＳ２５）。すなわち、入力受付部３１は、ステップＳ２３の処理にて表示した業務一覧のうち、選択入力された業務を取得する。例えば、入力受付部３１は、「業務Ａ、業務Ｂ、業務Ｃ」のうち、選択入力された「業務Ａ」を取得する。

[0062] 次に、読出し部３２は、記憶部２３に記憶された会議情報を読み出す（ステップＳ２６）。そして、出力部２５は、読み出した会議情報を含む会議情報入力画面を表示する（ステップＳ２７）。例えば、出力部２５は、図１１

の会議情報入力画面５１を表示する。

[0063] 続いて、入力受付部３１は、会議情報の入力を受け付ける（ステップＳ２８）。例えば、会議情報入力画面５１の登録ボタン５２が選択された場合に、入力受付部３１は、会議情報入力画面５１に入力された会議情報の入力を受け付ける。そして、記憶制御部３３は、ステップＳ２５の処理にて入力を受け付けた関連業務（例えば「業務Ａ」の業務ＩＤ「Ｘ０００１」）に対応付けて、ステップＳ２８の処理にて入力を受け付けた会議情報を記憶部２３に記憶する（ステップＳ２９）。これにより、記憶制御部３３は、会議情報の各項目が入力された図７の会議情報テーブル５５を生成することができる。また、会議の開始前に会議の参加者に会議の目的を表示し、会議の目的を共有させることにより、生産性の高い会議を実現させることができる。

[0064] 次に、図２１と図２２を参照して、会議中の処理について説明する。図２１は、アクションアイテム情報登録処理を説明するための図である。図２２は、決定事項情報登録処理を説明するための図である。

[0065] まず、図２１を参照してアクションアイテム情報登録処理について説明する。アクションアイテム情報登録処理は、例えば入力受付部３１がユーザからアクションアイテム情報の入力指示を受け付ける度に（例えばユーザによりアクションアイテム用のアイコンが選択された）実行される。ユーザからの入力指示を受け付けると、出力部２５は、図１２のアクションアイテム入力画面６１を表示する（ステップＳ５１）。

[0066] 続いて、入力受付部３１は、アクションアイテム情報の入力を受け付ける（ステップＳ５２）。例えば、アクションアイテム入力画面６１にてユーザにより、入力部２４を介してアクションアイテムと、期日と、担当者と、の情報が入力された後に、アクションアイテム入力画面６１の登録ボタン６２が選択された場合に、入力受付部３１は、入力されたアクションアイテム情報の入力を受け付ける。そして、記憶制御部３３は、ステップＳ５２の処理にて取得したアクションアイテム情報を、会議に関連する関連業務に対応付けて記憶部２３に記憶する（ステップＳ５３）。これにより、記憶制御部３

３は、新たなアクションアイテム情報を記憶した図８のアクションアイテムテーブル６５を生成する。

[0067] 次に、図２２を参照して決定事項情報登録処理について説明する。決定事項情報登録処理は、例えば入力受付部３１がユーザから決定事項情報の入力指示を受け付ける度に（例えばユーザにより決定事項用のアイコンが選択された）実行される。ユーザからの入力指示を受け付けると、出力部２５は、図１３の決定事項入力画面７１を表示する（ステップＳ６１）。

[0068] 続いて、入力受付部３１は、決定事項情報の入力を受け付ける（ステップＳ６２）。例えば、決定事項入力画面６１にてユーザにより、入力部２４を介して決定事項と、理由と、作成日と、が入力された後に、決定事項入力画面７１の登録ボタン７２が選択された場合に、入力受付部３１は、入力された決定事項情報の入力を受け付ける。そして、記憶制御部３３は、ステップＳ６２の処理にて取得した決定事項情報を、会議に関連する関連業務に対応付けて記憶部２３に記憶する（ステップＳ６３）。これにより、記憶制御部３３は、新たな決定事項情報を記憶した図９の決定事項テーブル７５を生成する。

[0069] これにより、会議中に生成された会議内容情報（アクションアイテム情報と決定事項情報）を会議に関連する関連業務に対応付けて記憶することができる。なお、ユーザにより会議の終了が指示された時に、会議情報に対応付けて会議成果物情報（会議の議事録情報とメモ情報）を記憶することができる（例えば図１０）。

[0070] 次に、図２３を参照して、会議の終了後における会議内容情報読出し処理について説明する。会議内容情報読出し処理は、例えば、ユーザの自席に配置されたユーザ端末１３Ａ，１３Ｂ，…を介して行われる。なお、図２３のステップＳ８１，Ｓ８２の処理は、図１８のステップＳ１，Ｓ２の処理と同様であるので、詳細な説明は省略する。また、図２３のステップＳ８３乃至Ｓ８５の処理は、図２０のステップＳ２３乃至Ｓ２５の処理と同様であるので、詳細な説明は省略する。さらに、以下の会議内容情報読出し処理では、

会議内容情報としてアクションアイテム情報を読み出す例について説明するが、決定事項情報についても同様の処理にて読み出すことができる。さらにまた、会議内容情報に限らず、会議情報についても同様の処理にて読み出すことができる。

[0071] 例えば、入力受付部３１は、ユーザＡからユーザ情報の入力を受け付ける（ステップＳ８１）。続いて、認証部３４は、ユーザ（ユーザＡ）を認証する（ステップＳ８２）。続いて、読出し部３２は、ユーザ情報（ユーザＩＤ「Ｕ０００１」）に対応付けられた業務一覧を読み出す（ステップＳ８３）。そして、出力部２５は、読み出した業務一覧（図１４）を表示する（ステップＳ８４）。続いて、入力受付部３１は、ユーザから、表示した業務一覧（例えば業務Ａと業務Ｂと業務Ｃ）のうち会議に関連する関連業務（例えば業務Ａ）の選択入力を受け付ける（ステップＳ８５）。

[0072] 続いて、読出し部３２は、選択入力された関連業務に対応付けられた会議内容情報を読み出す（ステップＳ８６）。例えば、読出し部３２は、図６の業務情報テーブル４２と、図８のアクションアイテムテーブル６５と、を参照して、業務ＩＤ「Ｘ０００１」（業務Ａ）に対応付けられたアクションアイテム（例えば５つのアクションアイテムａ乃至ｅ）を読み出す。続いて、出力部２５は、ステップＳ４２の処理にて読み出された会議内容情報の一覧を表示する（ステップＳ８７）。例えば、出力部２５は、図１５Ａの業務Ａに対応付けられたアクションアイテム一覧画面１６１Ａを表示する。

[0073] 次に、入力受付部３１は、会議内容情報の選択入力を受け付ける（ステップＳ８８）。例えば、入力受付部３１は、図１５Ａのアクションアイテム一覧画面１６１Ａの「アクションアイテムａ」のレコードに対応付けられた詳細ボタン１６２の選択入力を受け付ける。そして、出力部２５は、選択入力された会議内容情報を表示する（ステップＳ８９）。例えば、出力部２５は、「アクションアイテムａ」のアクションアイテム情報（例えば図１２のアクションアイテム入力画面６１）を表示する。これにより、ユーザがアクションアイテム情報（会議内容情報）を確認することができるとともに、アク

ションアイテム情報を編集（変更又は削除）することができる。

[0074] このように、業務情報（業務識別情報）の一覧から、ユーザが所望する業務情報を選択し、その業務情報に対応する会議情報及び会議内容情報の一覧を表示するので、業務情報に対応付けられた会議情報と会議内容情報とのそれぞれを容易に閲覧することができる。これにより、ユーザが会議の識別情報を覚えていなくても、当該会議にて議論された会議内容情報を迅速に閲覧することができる。

[0075] 以上、上記実施形態を参照して本願発明を説明したが、本願発明は、上述した実施形態に限定されるものではない。本願発明の構成及び詳細に、本願発明の範囲内において当業者が理解し得る様々な変更をすることができる。

[0076] ＜付記＞

上記実施形態の一部又は全部は、以下の付記のようにも記載されうる。以下、本発明における情報処理装置等の構成の概略を説明する。但し、本発明は、以下の構成に限定されない。

[0077] （付記１）

業務の種類を識別するための業務識別情報を記憶する記憶手段と、

会議を識別するための会議識別情報、及び、当該会議の属する業務を特定するための業務特定情報を含む会議情報と、前記業務特定情報を含み、当該会議にて議論された内容を表す会議内容情報と、の入力を受け付ける入力受付手段と、

前記入力受付手段にて入力を受け付けた前記会議情報と前記会議内容情報とのそれぞれを、当該会議情報と当該会議内容情報とのそれぞれに含まれる前記業務特定情報に対応する業務の前記業務識別情報に対応付けて前記記憶手段に記憶する記憶制御手段と、

を備える情報処理装置。

[0078] これによれば、業務識別情報に対応付けて、会議情報と会議内容情報とのそれぞれを記憶するので、ユーザが会議の識別情報を覚えていなくても、ユーザが所望する当該会議にて議論された会議内容情報を迅速に取得し、閲覧

することができる。

[0079] （付記２）

付記１に記載の情報処理装置であって、

前記記憶制御手段は、ユーザを識別するためのユーザ識別情報と、当該ユーザが行う業務の種類を識別するための前記業務識別情報と、を対応付けて前記記憶手段に記憶し、

ユーザから入力を受け付けた前記ユーザ識別情報に対応付けられた前記業務識別情報を前記記憶手段から読み出す読出し手段と、

前記読出し手段にて読み出した前記業務識別情報の一覧を表示出力する出力手段と、

を備える情報処理装置。

[0080] これによれば、ユーザを識別するためのユーザ識別情報と、業務識別情報と、を対応付けて予め記憶し、ユーザ識別情報が入力されたときに、ユーザ識別情報に対応付けられた業務識別情報を読み出して、その業務識別情報の一覧を表示出力するので、ユーザが選択を所望する業務を迅速かつ容易に選択することができる。

[0081] （付記３）

付記２に記載の情報処理装置であって、

前記読出し手段は、表示出力した前記業務識別情報の一覧のうち、ユーザから選択入力を受け付けた前記業務識別情報に対応付けられた前記会議内容情報を前記記憶手段から読出し、

前記出力手段は、読み出した前記会議内容情報の一覧を表示出力する、

情報処理装置。

[0082] これによれば、ユーザにより選択された業務に対応付けられた会議内容情報を読み出し、読み出した会議内容情報の一覧を表示出力するので、ユーザが所望する会議内容情報を迅速かつ容易に選択することができる。

[0083] （付記４）

付記３に記載の情報処理装置であって、

前記会議内容情報は、ユーザが実行すべきことを表すアクションアイテム情報を含み、

前記記憶制御手段は、前記入力受付手段にて入力を受け付けた前記アクションアイテム情報に含まれる前記業務特定情報に対応する業務の前記業務識別情報と、当該業務識別情報により識別される業務を行うユーザの前記ユーザ識別情報と、に対応付けて前記アクションアイテム情報を前記記憶手段に記憶し、

前記読出し手段は、前記出力手段にて表示出力した前記業務識別情報の一覧のうち、ユーザから選択入力を受け付けた前記業務識別情報と、当該ユーザから入力を受け付けた前記ユーザ識別情報と、に対応付けられた前記アクションアイテム情報を前記記憶手段から読み出す、

情報処理装置。

[0084] これによれば、業務識別情報とユーザ識別情報とに対応付けられたアクションアイテム情報を読み出すので、ユーザが所望するアクションアイテム情報のうちユーザが担当するアクションアイテム情報の一覧を表示出力することができる。

[0085] （付記５）

付記２乃至４のいずれかに記載の情報処理装置であって、

前記読出し手段は、表示出力した前記業務識別情報の一覧のうち、ユーザから選択入力を受け付けた前記業務識別情報に対応付けられた前記会議情報を前記記憶手段から読み出し、

前記出力手段は、読み出した前記会議情報の一覧を表示出力する、

情報処理装置。

[0086] これによれば、ユーザにより選択された業務に対応付けられた会議情報を読み出し、読み出した会議情報の一覧を表示出力するので、ユーザが所望する会議情報を迅速かつ容易に選択することができる。

[0087] （付記６）

請求項１乃至５のいずれかに記載の情報処理装置であって、

前記会議内容情報は、会議にて決定された内容を表す決定事項情報を含み、

前記記憶制御手段は、前記入力受付手段にて入力を受け付けた前記決定事項を、当該決定事項情報に含まれる前記業務特定情報に対応する業務の前記業務識別情報に対応付けて前記記憶手段に記憶する、

情報処理装置。

[0088] これによれば、業務識別情報に対応付けて、決定事項情報を記憶するので、ユーザが会議の識別情報を覚えていなくても、ユーザが所望する当該会議にて決定された決定事項情報を迅速に取得し、閲覧することができる。

[0089] （付記７）

付記１乃至６のいずれかに記載の情報処理装置であって、

前記記憶制御手段は、前記記憶手段の記憶領域に構築したデータベースにおける所定の階層に前記業務識別情報を記憶し、当該業務識別情報を記憶した階層の下位の階層に、前記入力受付手段にて入力を受け付けた前記会議情報と前記会議内容情報とのそれぞれを、当該会議情報と当該会議内容情報とのそれぞれに含まれる前記業務特定情報に対応する業務の前記業務識別情報に対応付けて記憶することにより、前記業務識別情報と、前記会議情報及び前記会議内容情報と、を階層構造にて記憶する、

情報処理装置。

[0090] これによれば、業務識別情報と、会議情報及び会議内容情報と、が階層構造にて記憶されるので、業務識別情報と、会議情報及び会議内容情報と、の管理が容易になると共に、ユーザが選択を所望する業務を迅速かつ容易に選択することができる。

[0091] （付記８）

業務の種類を識別するための業務識別情報を記憶する記憶手段を備える情報処理装置にて、

会議を識別するための会議識別情報、及び、当該会議の属する業務を特定するための業務特定情報を含む会議情報と、前記業務特定情報を含み、当該

会議にて議論された内容を表す会議内容情報と、の入力を受け付け、

前記入力受付手段にて入力を受け付けた前記会議情報と前記会議内容情報とのそれぞれを、当該会議情報と当該会議内容情報とのそれぞれに含まれる前記業務特定情報に対応する業務の前記業務識別情報に対応付けて前記記憶手段に記憶する、

情報処理方法。

[0092] （付記９）

付記８に記載の情報処理方法であって、

ユーザから入力を受け付けた、当該ユーザを識別するためのユーザ識別情報に予め対応付けられた前記業務識別情報を前記記憶手段から読み出し、

読み出した前記業務識別情報の一覧を表示出力する、

情報処理方法。

[0093] （付記１０）

業務の種類を識別するための業務識別情報を記憶する記憶手段を備える情報処理装置に、

会議を識別するための会議識別情報、及び、当該会議の属する業務を特定するための業務特定情報を含む会議情報と、前記業務特定情報を含み、当該会議にて議論された内容を表す会議内容情報と、の入力を受け付ける入力受付手段と、

前記入力受付手段にて入力を受け付けた前記会議情報と前記会議内容情報とのそれぞれを、当該会議情報と当該会議内容情報とのそれぞれに含まれる前記業務特定情報に対応する業務の前記業務識別情報に対応付けて前記記憶手段に記憶する記憶制御手段と、

を実現させるためのプログラム。

[0094] （付記１１）

付記１０に記載のプログラムであって、

前記記憶制御手段は、ユーザを識別するためのユーザ識別情報と、当該ユーザが行う業務の種類を識別するための前記業務識別情報と、を対応付けて

前記記憶手段に記憶し、

ユーザから入力を受け付けたユーザ識別情報に対応付けられた前記業務識別情報を前記記憶手段から読み出す読出し手段と、

前記読出し手段にて読み出した前記業務識別情報の一覧を表示出力する出力手段と、

を実現させるプログラム。

[0095] ここで、上記各実施形態及び付記において記載したプログラムは、記憶装置に記憶されていたり、コンピュータが読み取り可能な記録媒体に記録されている。例えば、記録媒体は、フレキシブルディスク、光ディスク、光磁気ディスク、及び、半導体メモリ等の可搬性を有する媒体である。

[0096] なお、本発明は、日本国にて２０１２年９月２８日に特許出願された特願２０１２－２１５３４９の特許出願に基づく優先権主張の利益を享受するものであり、当該特許出願に記載された内容は、全て本明細書に含まれるものとする。

符号の説明

[0097] １ 情報処理システム

１１ 情報処理装置

１２ 通信網

１３ ユーザ端末

２１ 演算部

２２ RAM

２３ 記憶部

２４ 入力部

２５ 出力部

２６ 通信部

３１ 入力受付部

３２ 読出し部

３３ 記憶制御部

３４　認証部

請求の範囲

[請求項1] 業務の種類を識別するための業務識別情報を記憶する記憶手段と、

会議を識別するための会議識別情報、及び、当該会議の属する業務を特定するための業務特定情報を含む会議情報と、前記業務特定情報を含み、当該会議にて議論された内容を表す会議内容情報と、の入力を受け付ける入力受付手段と、

前記入力受付手段にて入力を受け付けた前記会議情報と前記会議内容情報とのそれぞれを、当該会議情報と当該会議内容情報とのそれぞれに含まれる前記業務特定情報に対応する業務の前記業務識別情報に対応付けて前記記憶手段に記憶する記憶制御手段と、

を備える情報処理装置。

[請求項2] 請求項１に記載の情報処理装置であって、

前記記憶制御手段は、ユーザを識別するためのユーザ識別情報と、当該ユーザが行う業務の種類を識別するための前記業務識別情報と、を対応付けて前記記憶手段に記憶し、

ユーザから入力を受け付けた前記ユーザ識別情報に対応付けられた前記業務識別情報を前記記憶手段から読み出す読出し手段と、

前記読出し手段にて読み出した前記業務識別情報の一覧を表示出力する出力手段と、

を備える情報処理装置。

[請求項3] 請求項２に記載の情報処理装置であって、

前記読出し手段は、表示出力した前記業務識別情報の一覧のうち、ユーザから選択入力を受け付けた前記業務識別情報に対応付けられた前記会議内容情報を前記記憶手段から読出し、

前記出力手段は、読み出した前記会議内容情報の一覧を表示出力する、

情報処理装置。

[請求項4] 請求項３に記載の情報処理装置であって、

前記会議内容情報は、ユーザがこれから実行すべきことを表すアクションアイテム情報を含み、

前記記憶制御手段は、前記入力受付手段にて入力を受け付けた前記アクションアイテム情報に含まれる前記業務特定情報に対応する業務の前記業務識別情報と、当該業務識別情報により識別される業務を行うユーザの前記ユーザ識別情報と、に対応付けて前記アクションアイテム情報を前記記憶手段に記憶し、

前記読出し手段は、前記出力手段にて表示出力した前記業務識別情報の一覧のうち、ユーザから選択入力を受け付けた前記業務識別情報と、当該ユーザから入力を受け付けた前記ユーザ識別情報と、に対応付けられた前記アクションアイテム情報を前記記憶手段から読み出す、

情報処理装置。

[請求項5] 請求項２乃至４のいずれかに記載の情報処理装置であって、

前記読出し手段は、表示出力した前記業務識別情報の一覧のうち、ユーザから選択入力を受け付けた前記業務識別情報に対応付けられた前記会議情報を前記記憶手段から読み出し、

前記出力手段は、読み出した前記会議情報の一覧を表示出力する、

情報処理装置。

[請求項6] 請求項１乃至５のいずれかに記載の情報処理装置であって、

前記会議内容情報は、会議にて決定された内容を表す決定事項情報を含み、

前記記憶制御手段は、前記入力受付手段にて入力を受け付けた前記決定事項を、当該決定事項情報に含まれる前記業務特定情報に対応する業務の前記業務識別情報に対応付けて前記記憶手段に記憶する、

情報処理装置。

[請求項7] 請求項１乃至６のいずれかに記載の情報処理装置であって、

前記記憶制御手段は、前記記憶手段の記憶領域に構築したデータベ

ースにおける所定の階層に前記業務識別情報を記憶し、当該業務識別情報を記憶した階層の下位の階層に、前記入力受付手段にて入力を受け付けた前記会議情報と前記会議内容情報とのそれぞれを、当該会議情報と当該会議内容情報とのそれぞれに含まれる前記業務特定情報に対応する業務の前記業務識別情報に対応付けて記憶することにより、前記業務識別情報と、前記会議情報及び前記会議内容情報と、を階層構造にて記憶する、

情報処理装置。

[請求項8] 業務の種類を識別するための業務識別情報を記憶する記憶手段を備える情報処理装置にて、

会議を識別するための会議識別情報、及び、当該会議の属する業務を特定するための業務特定情報を含む会議情報と、前記業務特定情報を含み、当該会議にて議論された内容を表す会議内容情報と、の入力を受け付け、

前記入力受付手段にて入力を受け付けた前記会議情報と前記会議内容情報とのそれぞれを、当該会議情報と当該会議内容情報とのそれぞれに含まれる前記業務特定情報に対応する業務の前記業務識別情報に対応付けて前記記憶手段に記憶する、

情報処理方法。

[請求項9] 請求項８に記載の情報処理方法であって、

ユーザから入力を受け付けた、当該ユーザを識別するためのユーザ識別情報に予め対応付けられた前記業務識別情報を前記記憶手段から読み出し、

読み出した前記業務識別情報の一覧を表示出力する、

情報処理方法。

[請求項10] 業務の種類を識別するための業務識別情報を記憶する記憶手段を備える情報処理装置に、

会議を識別するための会議識別情報、及び、当該会議の属する業務

を特定するための業務特定情報を含む会議情報と、前記業務特定情報を含み、当該会議にて議論された内容を表す会議内容情報と、の入力を受け付ける入力受付手段と、

前記入力受付手段にて入力を受け付けた前記会議情報と前記会議内容情報とのそれぞれを、当該会議情報と当該会議内容情報とのそれぞれに含まれる前記業務特定情報に対応する業務の前記業務識別情報に対応付けて前記記憶手段に記憶する記憶制御手段と、

を実現させるためのプログラム。

［請求項11］ 請求項１０に記載のプログラムであって、

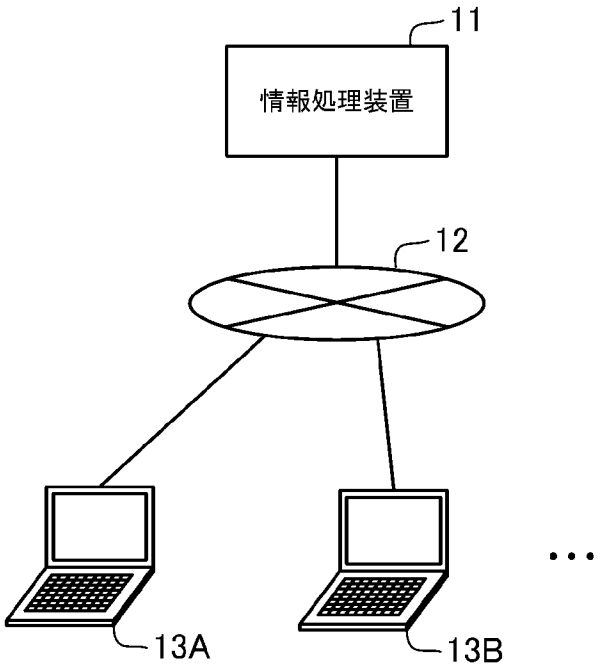
前記記憶制御手段は、ユーザを識別するためのユーザ識別情報と、当該ユーザが行う業務の種類を識別するための前記業務識別情報と、を対応付けて前記記憶手段に記憶し、

ユーザから入力を受け付けたユーザ識別情報に対応付けられた前記業務識別情報を前記記憶手段から読み出す読出し手段と、

前記読出し手段にて読み出した前記業務識別情報の一覧を表示出力する出力手段と、

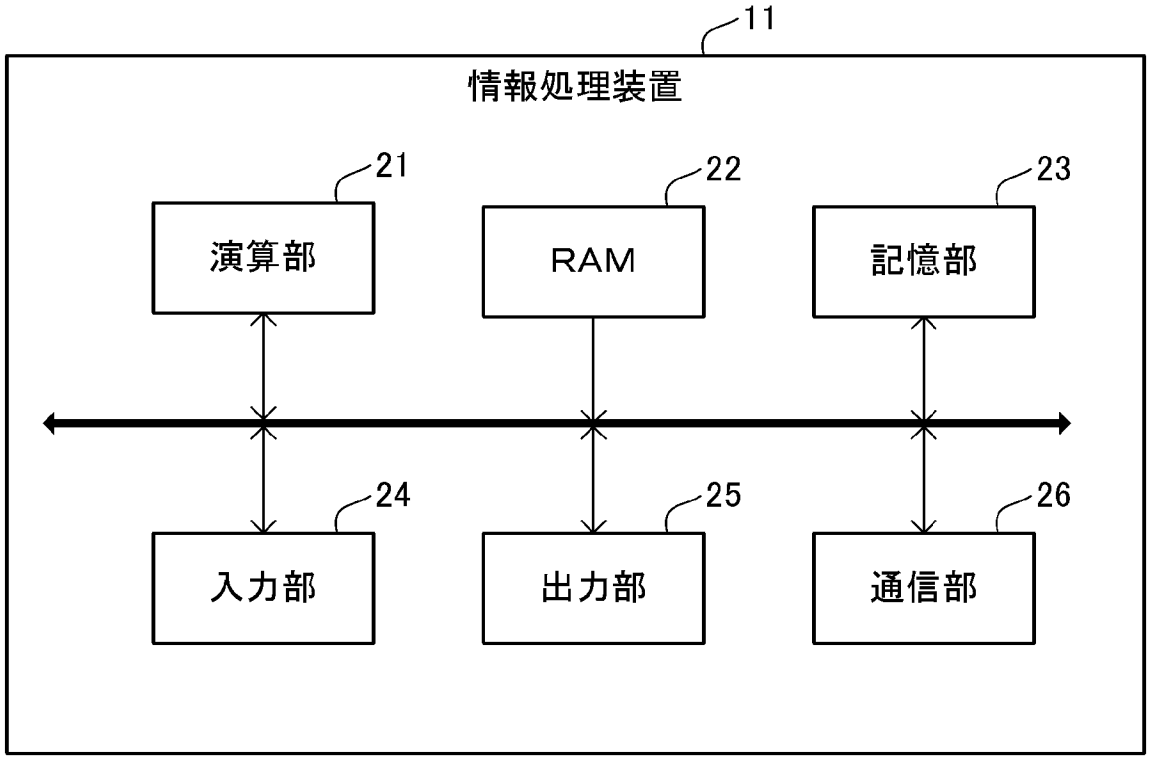
を実現させるプログラム。

[図1]

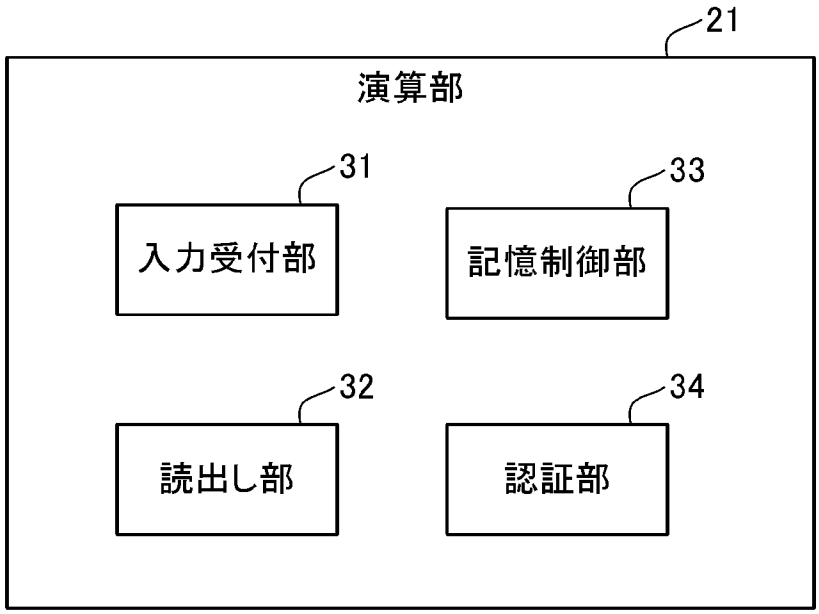

11
情報処理装置
12
13A
13B
・・・

1

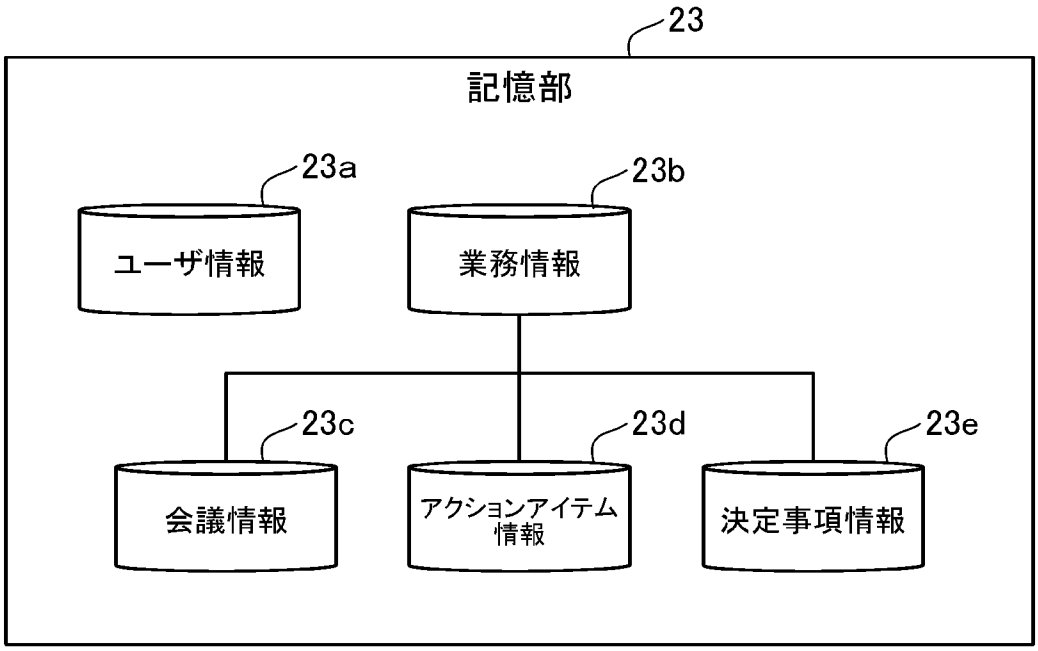
[図2]


11
情報処理装置
21
演算部
22
RAM
23
記憶部
24
入力部
25
出力部
26
通信部

[図3]


21
演算部
31
入力受付部
33
記憶制御部
32
読出し部
34
認証部

[図4]


23
記憶部
23a
ユーザ情報
23b
業務情報
23c
会議情報
23d
アクションアイテム情報
23e
決定事項情報

[図5]

41

ユーザID	ユーザ名	パスワード
U0001	ユーザA	××××
U0002	ユーザB	×××△
U0003	ユーザC	××△×
U0004	ユーザD	×△××
⋮	⋮	⋮

[図6]

42

業務ID	業務名	ユーザID
X0001	業務A	U0001, U0002, …
X0002	業務B	U0001, U0003, …
X0003	業務C	U0001, U0002, …
X0004	業務D	U0002, U0004, …
⋮	⋮	⋮

[図7]

55

会議ID	会議名	目的	会議日	開始時刻	終了時刻	場所	参加者（ユーザID）	関連業務（業務ID）
M0001	会議a	目的a	2012.xx.△△	9:00	11:00	第1会議室	U0001, U0002, …	X0001
M0002	会議b	目的b	2012.xx.△□	13:00	15:00	第2会議室	U0001, U0003, …	X0001
M0003	会議c	目的c	2012.xx.○△	14:00	18:00	第1会議室	U0001, U0002, …	X0001
M0011	会議x	目的x	2012.xx.○□	10:00	12:00	第3会議室	U0002, U0004, …	U0002
M0012	会議y	目的y	2012.xx.□○	10:00	12:00	第3会議室	U0002, U0004, …	U0002
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

[図8]

65

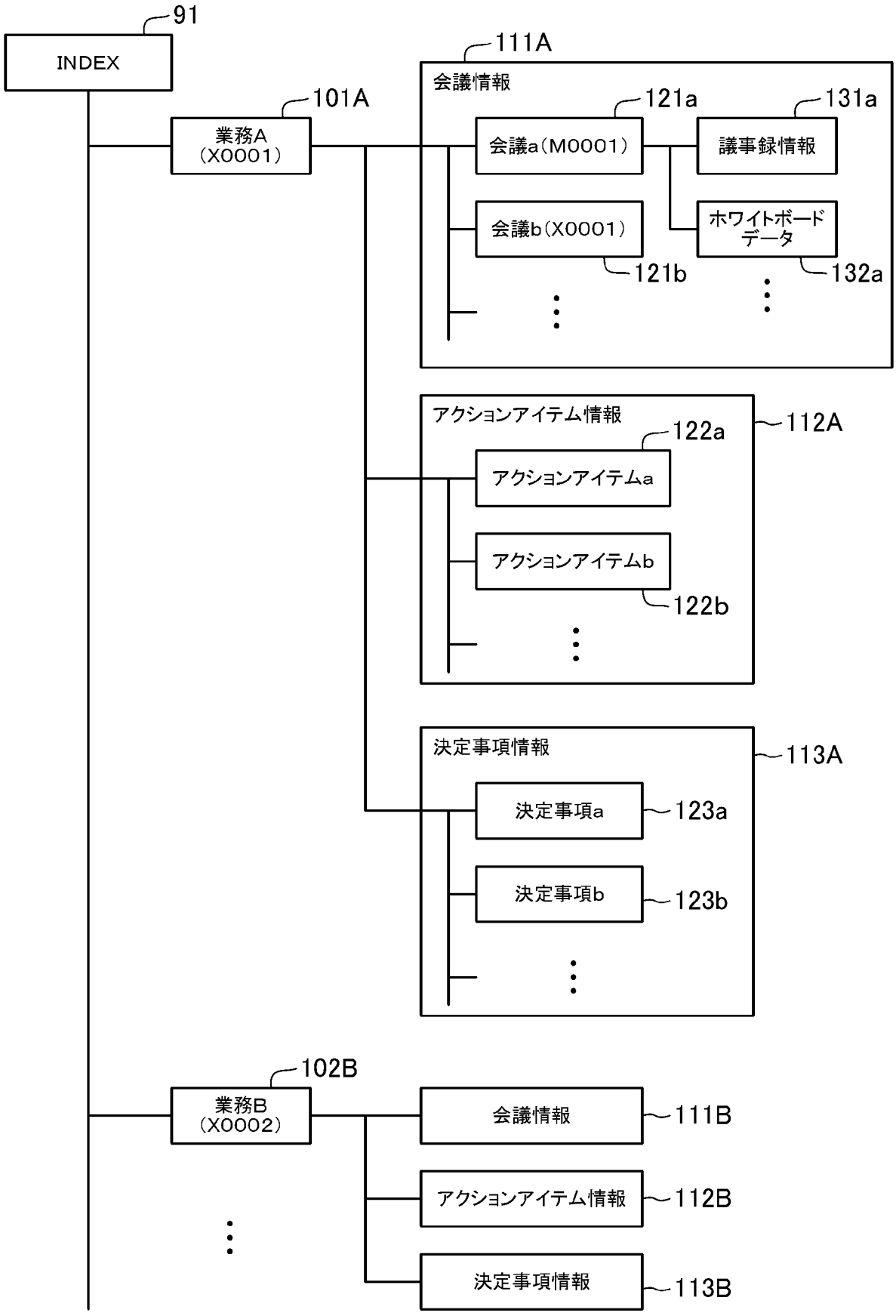
アクションアイテムID	アクションアイテム	期日	担当者（ユーザID）	関連業務（業務ID）
A0001	アクションアイテムa	2012.xx.□□	U0001	X0001
A0002	アクションアイテムb	2012.xx.□□	U0003	X0001
A0003	アクションアイテムc	2012.xx.□△	U0001	X0001
A0004	アクションアイテムd	2012.xx.□△	U0001	X0001
A0005	アクションアイテムe	2012.xx.○○	U0002	X0001
A0006	アクションアイテムx	2012.xx.□□	U0002	X0002
A0007	アクションアイテムy	2012.xx.○○	U0001	X0002
・・・	・・・	・・・	・・・	・・・

[図9]

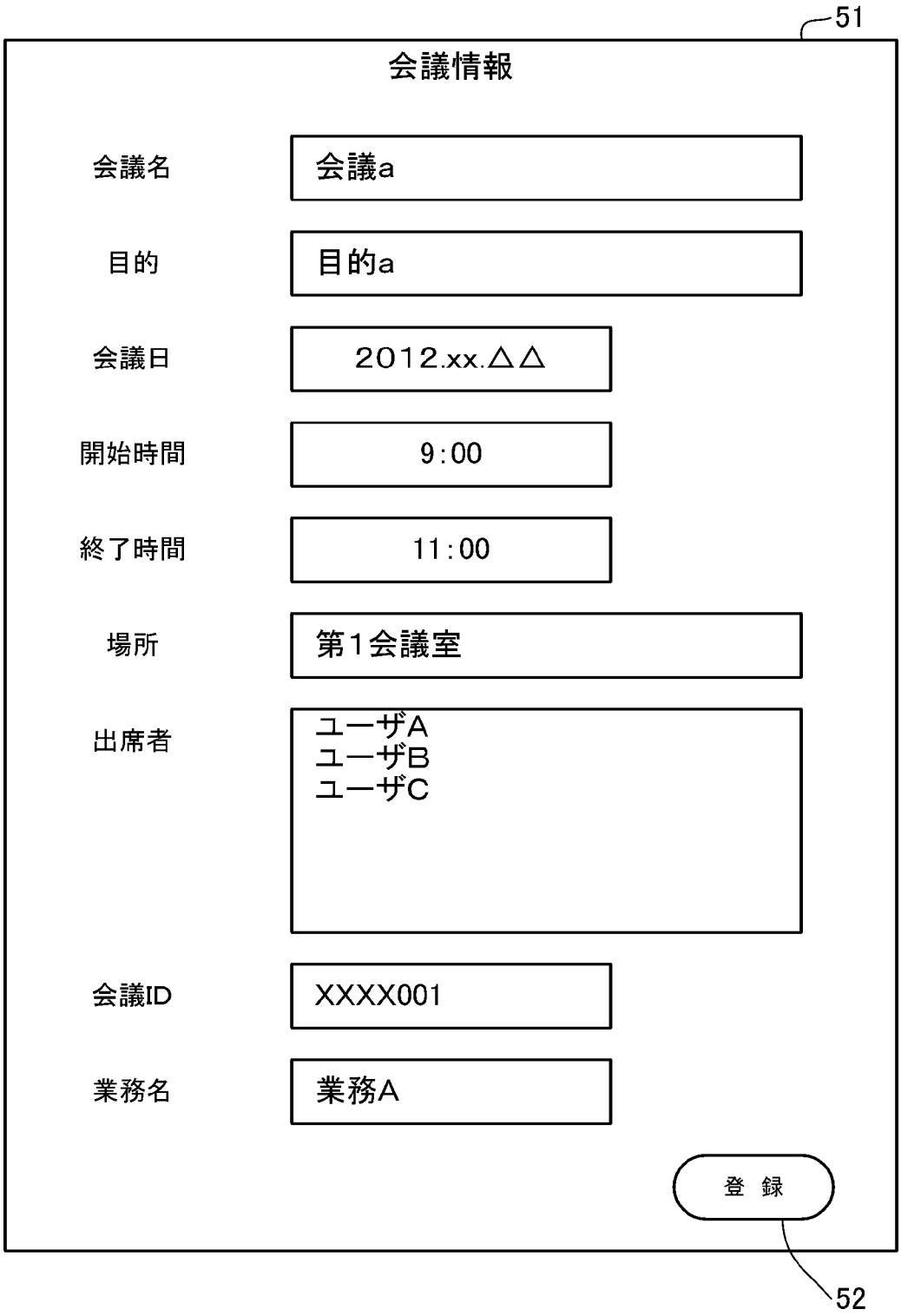
75

決定事項ID	決定事項	理由	作成日	関連業務（業務ID）
D0001	決定事項a	理由a	2012.xx.△□	X0001
D0002	決定事項b	理由b	2012.xx.△△	X0001
D0003	決定事項c	理由c	2012.xx.△△	X0001
D0004	決定事項d	理由d	2012.xx.○□	X0002
D0005	決定事項e	理由e	2012.xx.○□	X0002
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

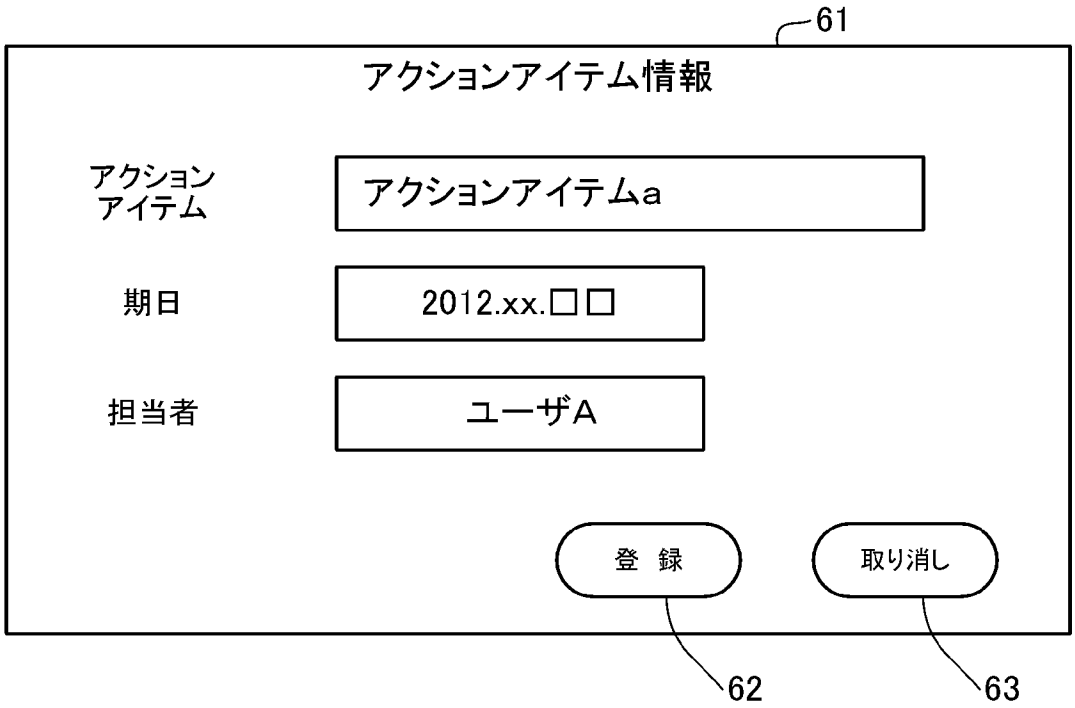
[図10]


91
INDEX
101A
業務A
(X0001)
111A
会議情報
121a
会議a(M0001)
131a
議事録情報
会議b(X0001)
121b
ホワイトボード
データ
132a
アクションアイテム情報
122a
112A
アクションアイテムa
アクションアイテムb
122b
決定事項情報
113A
決定事項a
123a
決定事項b
123b
102B
業務B
(X0002)
会議情報
111B
アクションアイテム情報
112B
決定事項情報
113B

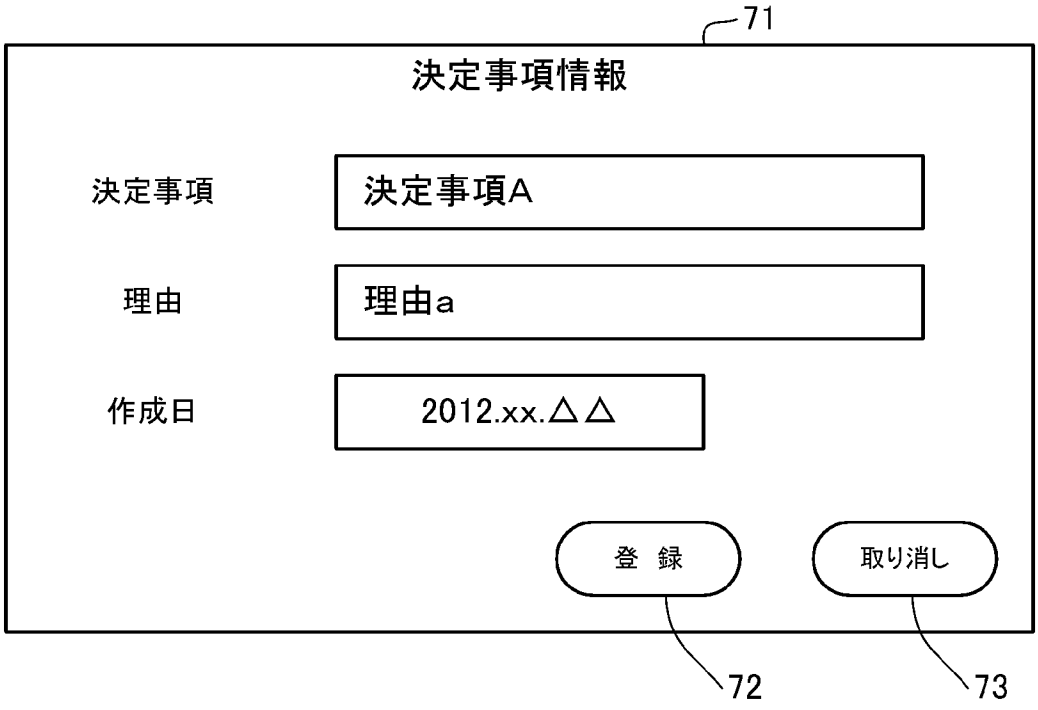
[図11]


51
会議情報
会議名
会議a
目的
目的a
会議日
2012.xx.△△
開始時間
9:00
終了時間
11:00
場所
第1会議室
出席者
ユーザA
ユーザB
ユーザC
会議ID
XXXX001
業務名
業務A
登 録
52

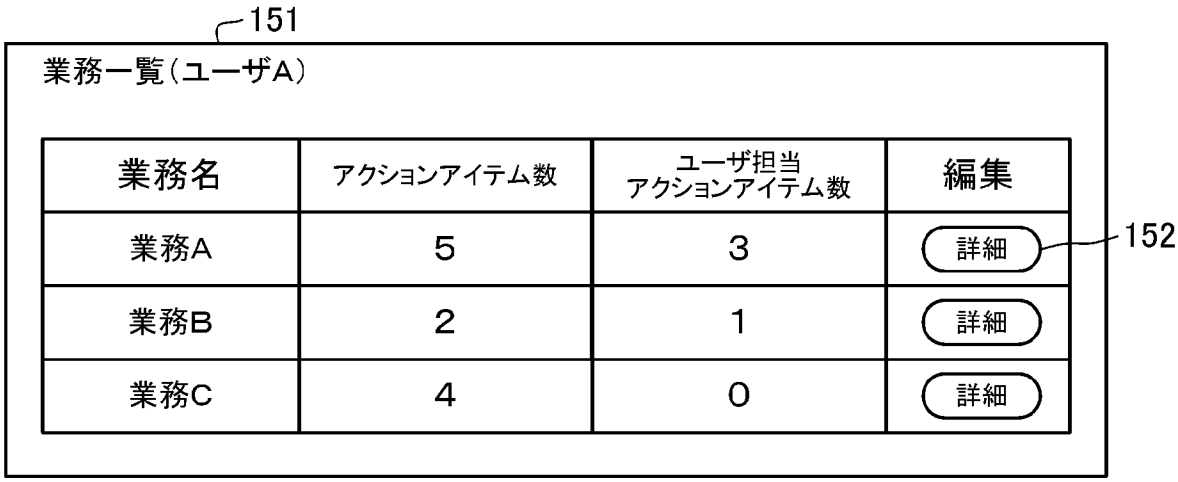
[図12]


61
アクションアイテム情報
アクション
アイテム
アクションアイテムa
期日
2012.xx.□□
担当者
ユーザA
登 録
取り消し
62
63

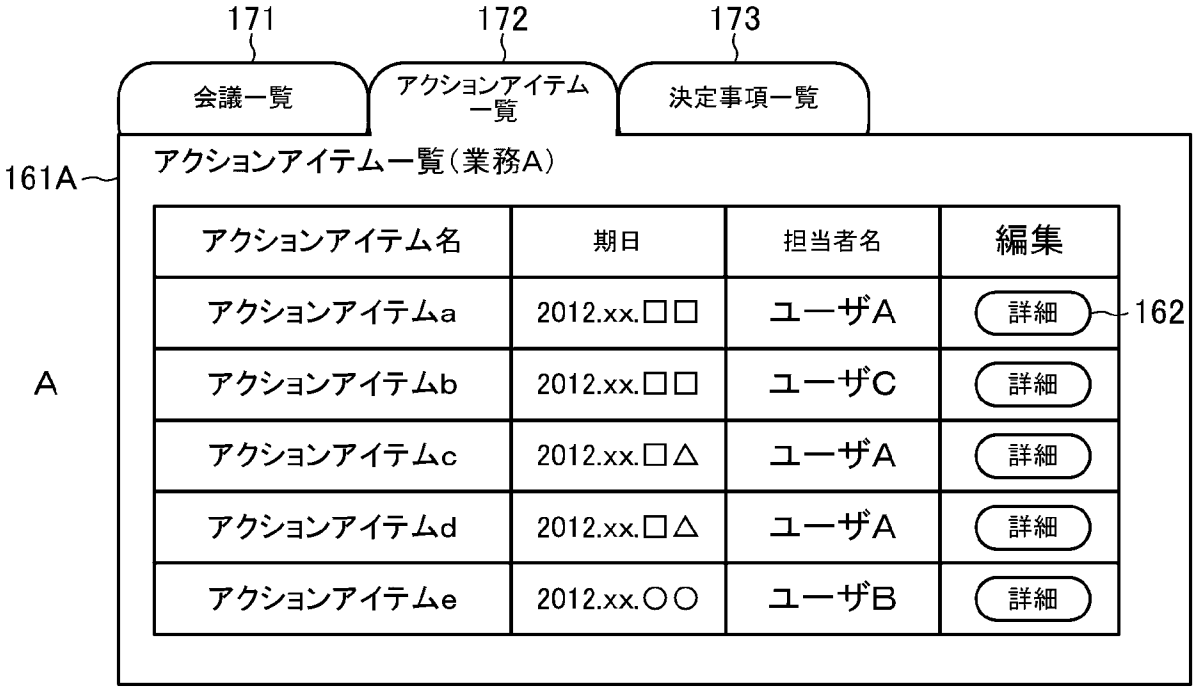
[図13]

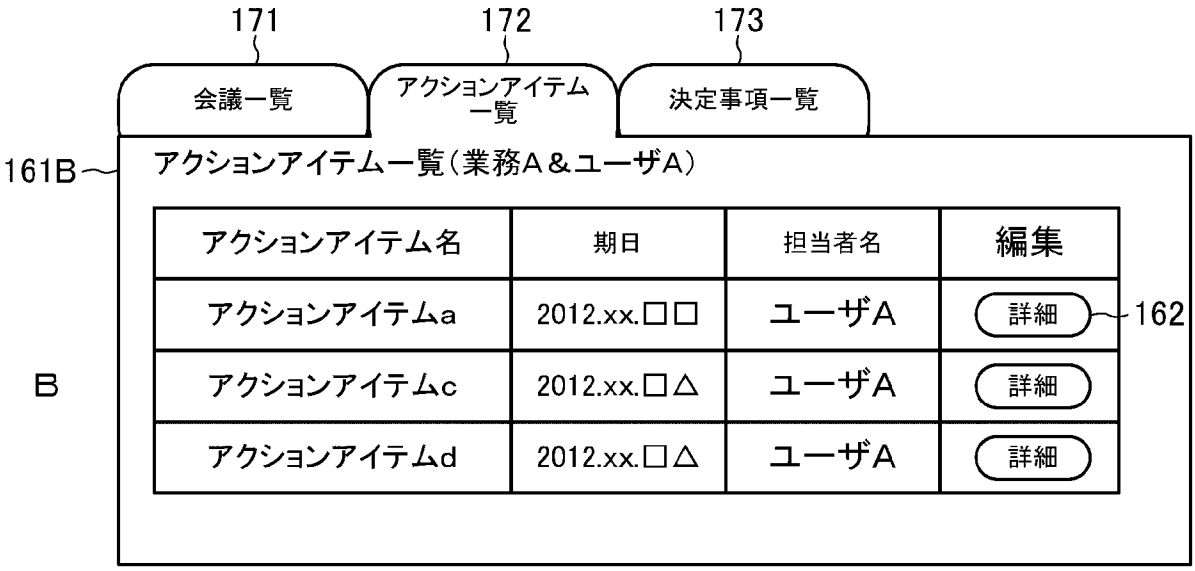

71
決定事項情報
決定事項
決定事項A
理由
理由a
作成日
2012.xx.△△
登 録
取り消し
72
73

[図14]


151
業務一覧（ユーザA）
業務名
アクションアイテム数
ユーザ担当
アクションアイテム数
編集
業務A
5
3
詳細
152
業務B
2
1
詳細
業務C
4
0
詳細

[図15]

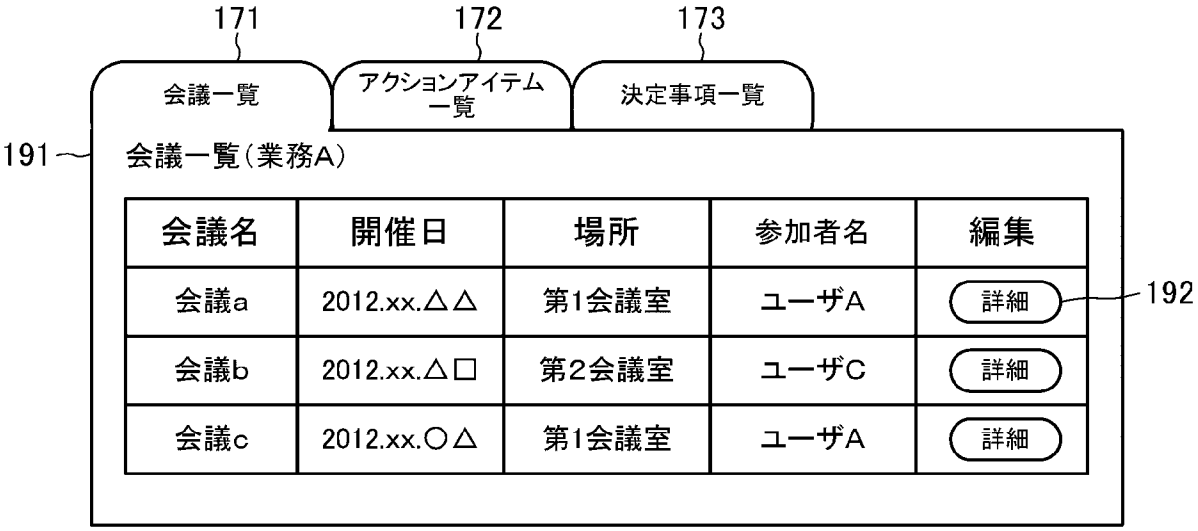

171
172
173
会議一覧
アクションアイテム一覧
決定事項一覧
161A
アクションアイテム一覧（業務A）
アクションアイテム名
期日
担当者名
編集
アクションアイテムa
2012.xx.□□
ユーザA
詳細
162
A
アクションアイテムb
2012.xx.□□
ユーザC
詳細
アクションアイテムc
2012.xx.□△
ユーザA
詳細
アクションアイテムd
2012.xx.□△
ユーザA
詳細
アクションアイテムe
2012.xx.○○
ユーザB
詳細


171
172
173
会議一覧
アクションアイテム一覧
決定事項一覧
161B
アクションアイテム一覧（業務A＆ユーザA）
アクションアイテム名
期日
担当者名
編集
アクションアイテムa
2012.xx.□□
ユーザA
詳細
162
B
アクションアイテムc
2012.xx.□△
ユーザA
詳細
アクションアイテムd
2012.xx.□△
ユーザA
詳細

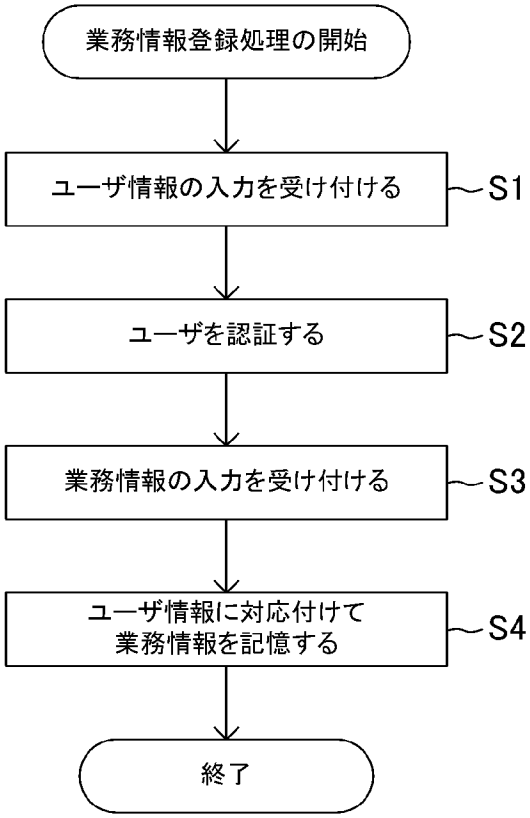
[図16]


171
172
173
会議一覧
アクションアイテム一覧
決定事項一覧
181
決定事項一覧(業務A)
決定事項
理由
作成日
編集
決定事項a
理由a
2012.xx.△□
詳細
182
決定事項b
理由b
2012.xx.△△
詳細
決定事項c
理由c
2012.xx.△△
詳細

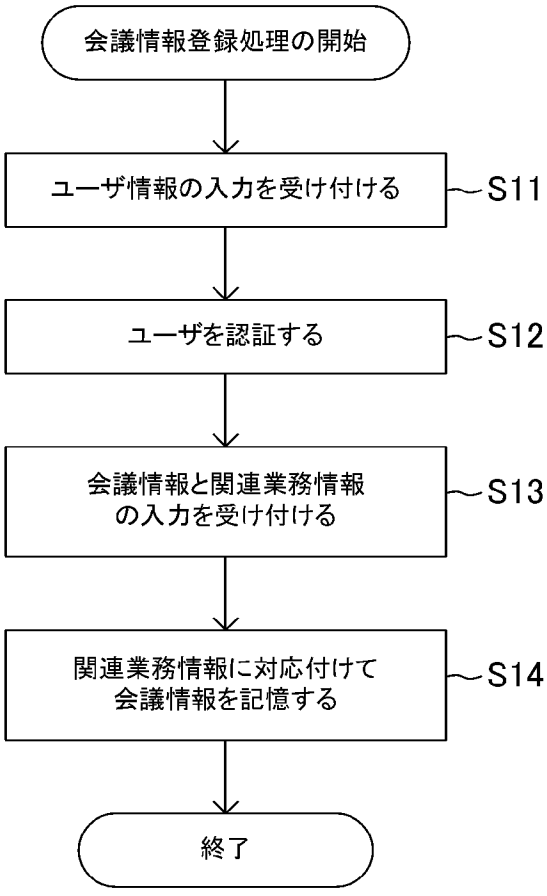
[図17]


171
172
173
会議一覧
アクションアイテム一覧
決定事項一覧
191
会議一覧(業務A)
会議名
開催日
場所
参加者名
編集
会議a
2012.xx.△△
第1会議室
ユーザA
詳細
192
会議b
2012.xx.△□
第2会議室
ユーザC
詳細
会議c
2012.xx.○△
第1会議室
ユーザA
詳細

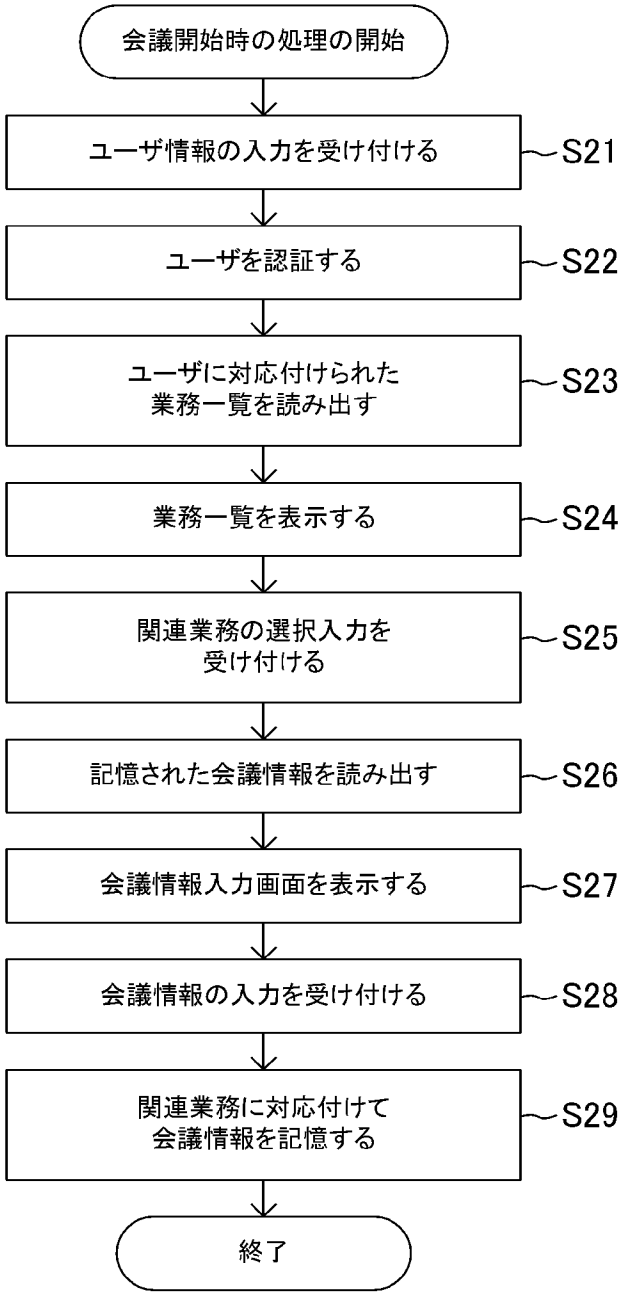
[図18]


業務情報登録処理の開始
ユーザ情報の入力を受け付ける
S1
ユーザを認証する
S2
業務情報の入力を受け付ける
S3
ユーザ情報に対応付けて
業務情報を記憶する
S4
終了

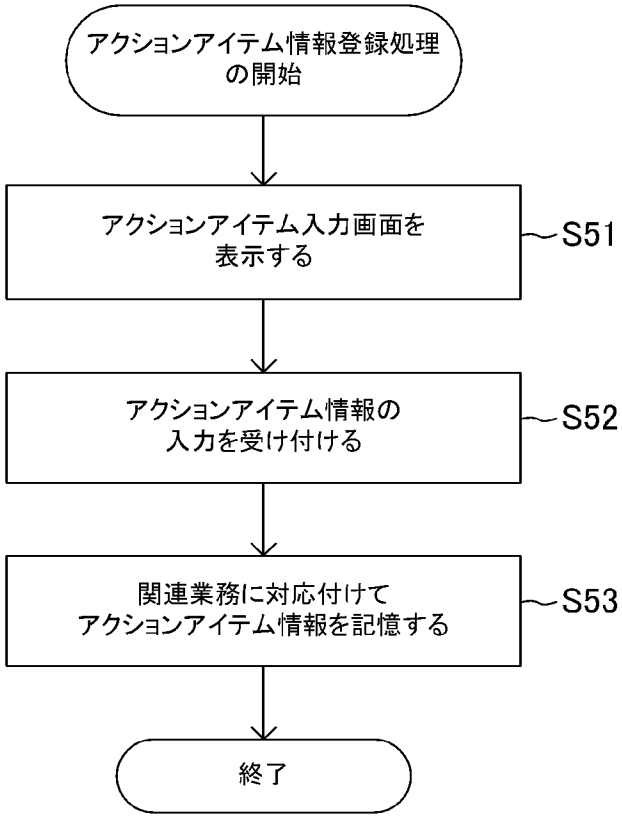
[図19]


会議情報登録処理の開始
ユーザ情報の入力を受け付ける
S11
ユーザを認証する
S12
会議情報と関連業務情報
の入力を受け付ける
S13
関連業務情報に対応付けて
会議情報を記憶する
S14
終了

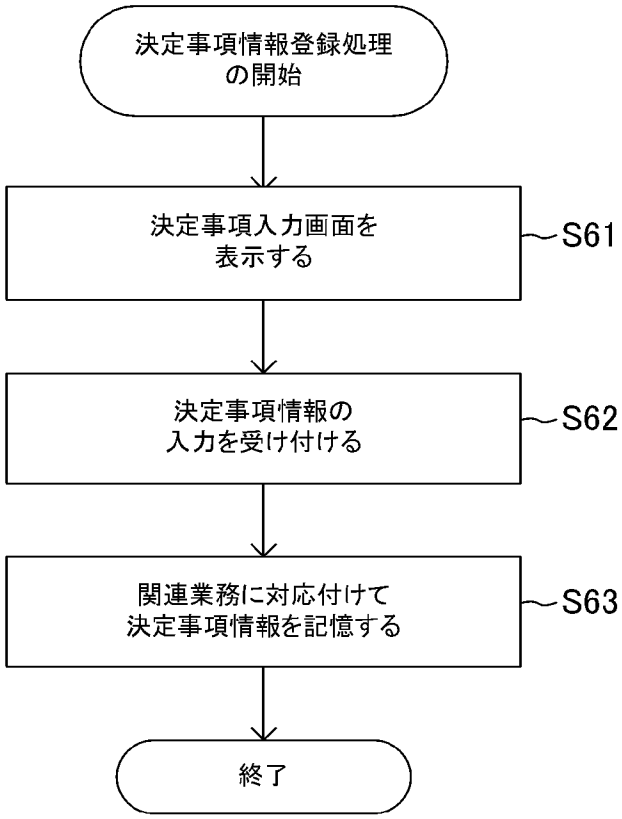
[図20]


会議開始時の処理の開始
ユーザ情報の入力を受け付ける
S21
ユーザを認証する
S22
ユーザに対応付けられた
業務一覧を読み出す
S23
業務一覧を表示する
S24
関連業務の選択入力を
受け付ける
S25
記憶された会議情報を読み出す
S26
会議情報入力画面を表示する
S27
会議情報の入力を受け付ける
S28
関連業務に対応付けて
会議情報を記憶する
S29
終了

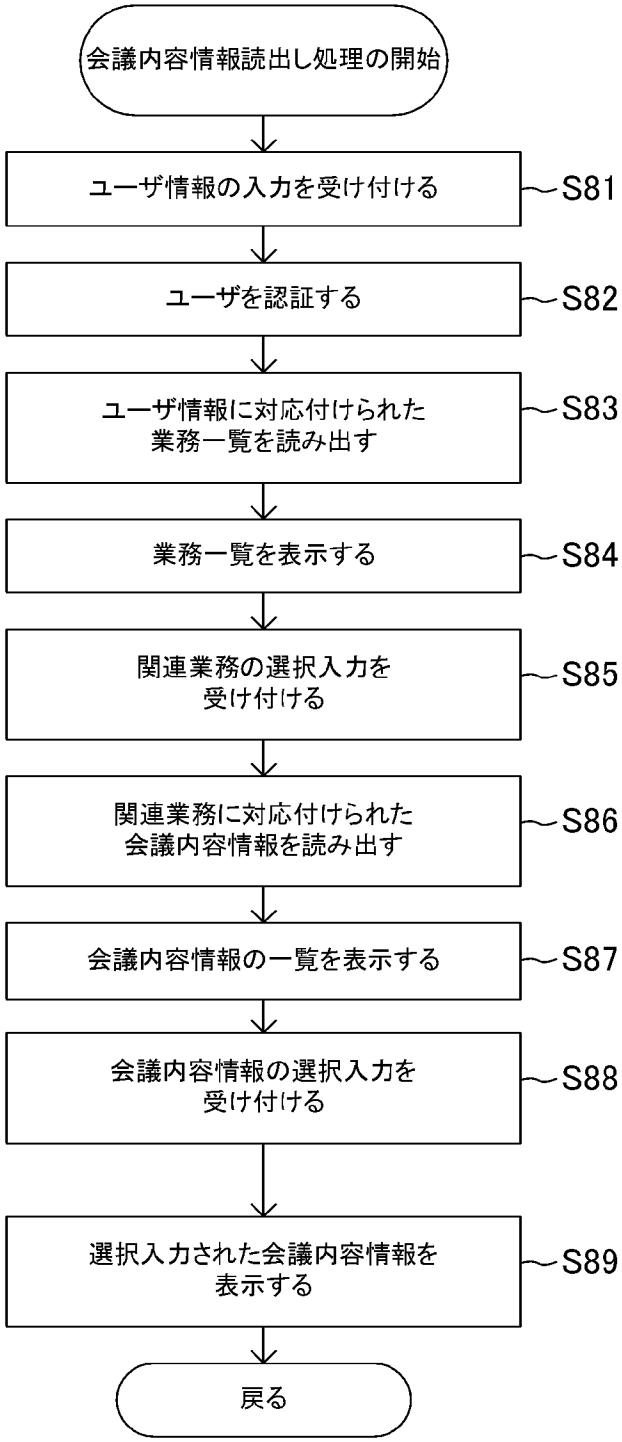
[図21]


アクションアイテム情報登録処理
の開始
アクションアイテム入力画面を
表示する
S51
アクションアイテム情報の
入力を受け付ける
S52
関連業務に対応付けて
アクションアイテム情報を記憶する
S53
終了

[図22]


決定事項情報登録処理
の開始
決定事項入力画面を
表示する
S61
決定事項情報の
入力を受け付ける
S62
関連業務に対応付けて
決定事項情報を記憶する
S63
終了

[図23]


会議内容情報読出し処理の開始
ユーザ情報の入力を受け付ける
S81
ユーザを認証する
S82
ユーザ情報に対応付けられた
業務一覧を読み出す
S83
業務一覧を表示する
S84
関連業務の選択入力を
受け付ける
S85
関連業務に対応付けられた
会議内容情報を読み出す
S86
会議内容情報の一覧を表示する
S87
会議内容情報の選択入力を
受け付ける
S88
選択入力された会議内容情報を
表示する
S89
戻る

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP2013/005404

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER
G06Q10/00(2012.01)i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)
G06Q10/00

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2013
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2013	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2013

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 2010-4211 A (Brother Industries, Ltd.), 07 January 2010 (07.01.2010), paragraphs [0029] to [0107] (Family: none)	1-11
Y	JP 2010-20677 A (Brother Industries, Ltd.), 28 January 2010 (28.01.2010), table 1 (Family: none)	1-11
Y	JP 2012-141752 A (Ricoh Co., Ltd.), 26 July 2012 (26.07.2012), paragraph [0046] (Family: none)	2-5

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C. ☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance
"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed
"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search	Date of mailing of the international search report
04 October, 2013 (04.10.13)	15 October, 2013 (15.10.13)
Name and mailing address of the ISA/ Japanese Patent Office Facsimile No.	Authorized officer Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP2013/005404

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 2011-191881 A (Ricoh Co., Ltd.), 29 September 2011 (29.09.2011), paragraphs [0008] to [0067] (Family: none)	4

国際調査報告

国際出願番号　ＰＣＴ／ＪＰ２０１３／００５４０４

Ａ．　発明の属する分野の分類（国際特許分類（ＩＰＣ））

Int.Cl.　G06Q10/00(2012.01)i

Ｂ．　調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（ＩＰＣ））

Int.Cl.　G06Q10/00

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	１９２２－１９９６年
日本国公開実用新案公報	１９７１－２０１３年
日本国実用新案登録公報	１９９６－２０１３年
日本国登録実用新案公報	１９９４－２０１３年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

Ｃ．　関連すると認められる文献

引用文献のカテゴリー＊	引用文献名　及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する請求項の番号
Ｙ	JP 2010-4211 A（ブラザー工業株式会社）2010.01.07，段落【００２９】－【０１０７】（ファミリーなし）	１－１１
Ｙ	JP 2010-20677 A（ブラザー工業株式会社）2010.01.28，【表１】（ファミリーなし）	１－１１
Ｙ	JP 2012-141752 A（株式会社リコー）2012.07.26，段落【００４６】（ファミリーなし）	２－５

☑　Ｃ欄の続きにも文献が列挙されている。

☐　パテントファミリーに関する別紙を参照。

＊　引用文献のカテゴリー

「Ａ」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの

「Ｅ」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの

「Ｌ」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）

「Ｏ」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献

「Ｐ」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献

「Ｔ」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「Ｘ」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Ｙ」特に関連のある文献であって、当該文献と他の１以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「＆」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日	国際調査報告の発送日
０４．１０．２０１３	１５．１０．２０１３

国際調査機関の名称及びあて先
日本国特許庁（ＩＳＡ／ＪＰ）
郵便番号１００－８９１５
東京都千代田区霞が関三丁目４番３号

特許庁審査官（権限のある職員）　５Ｌ　３０５０
宮下　浩次
電話番号　０３－３５８１－１１０１　内線　３５６２

Ｃ（続き）．　関連すると認められる文献

引用文献のカテゴリー＊	引用文献名　及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する請求項の番号
Ｙ	JP 2011-191881 A（株式会社リコー）2011.09.29, 段落【０００８】－【００６７】（ファミリーなし）	４